

基礎分野

「科学的思考の基盤」「人間と生活・社会の理解」

「基礎分野」は、「専門基礎分野」及び「専門分野Ⅰ」「専門分野Ⅱ」「統合分野」の基礎となる分野で、「科学的思考の基盤」と「人間と生活・社会の理解」の2つで構成されます。

「基礎分野」は、当校の教育理念である「人間のいのちの尊厳を基盤とする豊かな人間性と幅広い看護実践能力を有した人材を育成」することを目的に、看護を学ぶ者として必要な感性を磨き、幅広い物の見方や考え方、多様な人々とのコミュニケーションができる能力を養います。

科 目 名		単位	時間
科学的思考の基盤	看護のための物理学	1	30
	論理的思考	1	30
	情報科学	1	15
	看護情報学	1	15
人間と生活、社会の理解	生活科学	1	30
	社会学	1	30
	地域の人々とのふれあい	2	30
	人間関係論	1	30
	教育学	1	30
	心理学	1	30
	医療倫理	1	30
	英語	1	30
基礎分野 小計		13	330

専門基礎分野

「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」「健康支援と社会保障制度」

「専門基礎分野」は「基礎分野」の上に位置し、「人体の構造と機能」及び「疾病の成り立ちと回復の促進」「健康支援と社会保障制度」の３つで構成されます。

「専門基礎分野」は、「専門分野Ⅰ」「専門分野Ⅱ」「統合分野」を学ぶ上で
の土台となり、医療にかかわる専門職として必要な知識とアセスメント能力
を養います。

科 目 名		単位	時間
人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	1	30
	解剖生理学Ⅱ	1	30
	解剖生理学Ⅲ	1	30
	生物と生命論	1	30
	栄養学	1	30
	生化学	1	15
疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	1	30
	病態学Ⅰ	1	30
	病態学Ⅱ	1	30
	病態学Ⅲ	1	30
	病態学Ⅳ	1	30
	病態学Ⅴ	1	30
	薬理学	1	30
	微生物学	2	30
健康支援と社会保障制度	関係法規	2	30
	公衆衛生	2	30
	社会福祉	2	30
専門基礎分野 小計		21	495

専門分野Ⅰ・・・基礎看護学

「専門分野Ⅰ」は、「基礎分野」及び「専門基礎分野」の上に位置し、すべての看護実践の基盤であり、看護学を展開する上での核となるものです。この分野では各看護学や在宅看護論の基盤となる基礎的論理や基礎的技術、看護師として倫理的な判断をするための能力を養います。そのため、看護の対象としての「人間」「健康」の概念をより深く理解できる内容や「看護」そのものが深められる内容、看護の役割を遂行するために必要な基礎的能力を身につけられるよう臨地実習を含む科目で構成されています。

科 目 名		単位	時間
基礎看護学	看護学概論	1	30
	看護理論	1	30
	臨床看護総論	1	30
	看護の基本技術	1	30
	フィジカルアセスメント	1	30
	看護過程	1	30
	生活の援助技術Ⅰ	1	30
	生活の援助技術Ⅱ	1	30
	生活の援助技術Ⅲ	1	30
	診療の補助技術Ⅰ	1	30
	診療の補助技術Ⅱ	1	30
	診療の補助技術Ⅲ	1	30
基礎看護学実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45
	基礎看護学実習Ⅱ	2	90
基礎看護学 小計		15	495

専門分野Ⅱ

「専門分野Ⅱ」は、「専門分野Ⅰ」の上に位置し、「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」の5つで構成されています。

成長発達や人間の持つ機能に焦点を当て、看護の対象及の理解、健康の保持増進並びに疾病・障害をもつ人々に対する援助を学び、既習の学習内容を関連づけながら対象に応じた看護を実践するための能力を養います。

科 目 名		単位	時間
成人看護学	成人看護学概論	2	30
	成人看護援助論Ⅰ	1	30
	成人看護援助論Ⅱ	1	30
	成人看護援助論Ⅲ	1	30
	成人看護援助論Ⅳ	1	30
老年看護学	老年看護学概論	2	30
	老年看護援助論Ⅰ	1	30
	老年看護援助論Ⅱ	1	30
小児看護学	小児看護学概論	2	30
	小児看護援助論Ⅰ	1	30
	小児看護援助論Ⅱ	1	30
母性看護学	母性看護学概論	2	30
	母性看護援助論Ⅰ	1	30
	母性看護援助論Ⅱ	1	30
精神看護学	精神看護学概論	2	30
	精神看護援助論Ⅰ	1	30
	精神看護援助論Ⅱ	1	30
臨地実習	成人看護学実習Ⅰ	2	90
	成人看護学実習Ⅱ	2	90
	成人看護学実習Ⅲ	2	90
	老年看護学実習Ⅰ	2	90
	老年看護学実習Ⅱ	2	90
	小児看護学実習	2	90
	母性看護学実習	2	90
	精神看護学実習	2	90
専門分野Ⅱ 小計		38	1,230

統合分野

「在宅看護論」「看護の統合と実践」

「統合分野」は、「在宅看護論」と「看護の統合と実践」の2つで構成されます。「統合分野」は、「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野Ⅰ」「専門分野Ⅱ」で学んだ知識・技術を統合し、看護を統合的・実践的な視点からとらえ、保健医療福祉チームの一員として多職種連携・協働の実践を学びます。また、「統合分野」では、自己のキャリアデザインを描き、看護の役割拡大に対応でき、マネジメントに必要な基礎的能力を学びます。

科 目 名		単位	時間
在宅看護論	在宅看護概論	2	30
	在宅看護援助論Ⅰ	1	30
	在宅看護援助論Ⅱ	1	30
看護の統合と実践	看護研究Ⅰ	1	30
	看護研究Ⅱ	1	30
	看護の統合と実践技術	1	30
	看護管理	1	15
	地域医療	1	15
	医療安全	1	30
	災害看護	1	15
	国際看護論	1	15
臨地実習	在宅看護論実習	2	90
	統合実習	2	90
統合分野	小計	16	450

科目名	看護のための物理学	時期		時間	単位
担当教員	非常勤講師	1 年次	前期	30 時間	1 単位
学習目標	1 対象にとってより快適な療養環境に必要な物理学的視点を理解する 2 看護師にとって質の高い看護実践に必要な物理学的視点を理解する				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1～2	力のモーメント・てこの原理	1 力のモーメント 2 てこの原理 3 筋肉の張力と関節にはたらく力 4 腰にかかる力	講義
3～4	看護ボディメカニクスの物理	1 患者を動かす方法	講義
5～6	身近な圧力	1 圧力とは 2 圧力変化による人間への影響	講義
7～8	吸引器と吸引の物理	1 呼吸運動のメカニズム 2 吸引（ドレナージ） 3 サイフォン	講義
9～10	点滴静脈内注射の物理	1 点滴静脈内注射のセッティング 2 流量の調節 3 バッグの高さ	講義
11	循環器の物理	1 血液循環と血圧 2 血圧の重力による影響	講義
12	感覚器の物理	1 感覚 2 聴覚 3 視覚	講義
13	放射線の特性と基礎知識	1 電磁波 2 X線 3 放射線防御 4 放射線同位元素 5 放射線元素の崩壊と基礎知識	講義
14	体温制御の物理	1 体温調節	講義
15	試験（90 分）		

使用テキスト	看護学生のための物理学	佐藤 和良	医学書院
	[完全版]ベッドサイドを科学する： 看護に生かす物理学	平田 雅子	学研メディカル秀潤社
参考図書・資料等			
評価方法	筆記試験		

科目名	論理的思考	時期		時間	単位
担当教員	非常勤講師	1 年次	前期	30 時間	1 単位
学習目標	論理・思考・言語の関係を学び、論理的に思考する能力・適切に表現する能力を養う				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1	この授業で何を学ぶか	1 論理的思考とは何かを知る 2 課題の条件を確認する	
2	相手のことを考える 1	1 相手によって言葉を使い分ける 2 いろいろな立場を考慮に入れる	テキスト第 1 章
3	相手のことを考える 2	1 具体的状況での対処法を考える	テキスト第 1 章
4	言いたいことを整理する 1	1 思いつくままの文章を作る 2 煩雑な文章を整える	テキスト第 3 章
5	言いたいことを整理する 2	1 話題ごとにまとめる方法を知る 2 整理された文章を作る	テキスト第 3 章
6	きちんとつなげる	1 接続詞の使い分けを知る	テキスト第 4 章
7	文章の幹を捉える 1	1 文章の中心と周辺を見分ける	テキスト第 5 章
8	文章の幹を捉える 2	1 要約の方法を知る 2 要約の練習をする	テキスト第 5 章
9	事実なのか、考えなのか 1	1 事実・推測・意見の違いを知る 2 事実の多面性を考慮する	テキスト第 2 章
10	事実なのか、考えなのか 2	1 異なる見解の人を説得する 2 説得の内容を検討する	テキスト第 2 章
11	そう主張する根拠は何か 1	1 理由・原因と根拠の違いを知る 2 根拠を示す必要性を考える	テキスト第 6 章
12	そう主張する根拠は何か 2	1 良い根拠と悪い根拠を見分ける	テキスト第 6 章
13	的確な質問をする	1 質問の練習をする意味を知る 2 質問の仕方を考える	テキスト第 7 章
14	反論する	1 的確な反論を組み立てる	テキスト第 8 章
15	この授業で何を学んだか	1 学んだことを振り返る 2 論理的思考を実践する	

使用テキスト	大人のための国語ゼミ	野矢 茂樹	山川出版社
参考図書・資料等	論理的に解く力をつけよう	徳田 雄洋	岩波ジュニア新書
	理科系の作文技術	木下 是雄	中公新書
評価方法	授業中の課題 30 点、中間レポート 20 点、期末レポート 50 点(学習内容の定着度を測る)		

科目名	情報科学	時期		時間	単位
担当教員	非常勤講師	1 年次	後期	15 時間	1 単位
学習目標	情報と情報処理の基礎概念、コンピュータの基礎としてのハード・ソフトの概念を学習し、Windows などパソコンの基本操作、アプリケーションソフトの仕方を修得する				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1	情報科学とは	1 インターネット、コンピュータ、情報末端の使用 方法 2 情報化社会における諸課題、情報セキュリティ	講義
2	コンピュータによる 文書作成方法	1 コンピュータを用いた文書の作成方法	演習
3～6	表計算ソフトの利 用方法	1 表計算ソフトを用いた表とグラフの作成方法 および表計算機能（関数の使い方）	演習
7～ 8（45 分）	プレゼンテーショ ンツールの使い方	1 プレゼンテーションツール（Powerpoint）の使 い方	演習

使用テキスト	授業中に毎回プリントを配布する
参考図書・資料等	
評価方法	平素の授業状況の取り組みと演習課題を総合的に判断して行う

科目名	看護情報学	時期		時間	単位
担当教員	専任教員・非常勤講師 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	1年次	後期	15時間	1単位
学習目標	1 情報処理の基礎を学び、看護研究におけるコンピュータ活用方法を修得する 2 病院における情報システムについて学ぶ				

授 業 計 画			
回数	項目	内 容	方法
1～4	看護研究と情報システム	1 文献とは、文献検索の方法 2 文献検索の実際 3 統計の基礎 4 プレゼンテーション技法	講義 (専任教員)
5	病院情報システム	1 医療における情報システムと電子カルテ 2 安全管理と情報、データセキュリティ 3 地域包括医療システムと情報システム	講義 (非常勤講師)
6	看護記録と情報システム	1 看護におけるデータ、情報、知識と情報システム 2 看護における診断・介入・成果とその記録方法 3 看護の場面におけるコンピュータの利用、システム化	講義 (非常勤講師)
7	看護と情報に関する倫理	1 医療倫理の原則と倫理的な問題 2 個人情報および医療従事者の法的守秘義務、看護記録と倫理	講義 (非常勤講師)
8	終 験 (45 分)		

使用テキスト	系統看護学講座 別巻 看護研究	坂下 玲子他	医学書院
	系統看護学講座 別巻 看護情報学	中山 和弘他	医学書院
参考図書・資料等			
評価方法	筆記試験、課題レポート		

科目名	生活科学	時期		時間	単位
担当教員	非常勤講師	1 年次	後期	30 時間	1 単位
学習目標	看護職者として大きく変化している現代社会を正しく捉える能力を養い、患者や地域住民の生活・暮らしについて理解し、健康な地域づくりについて修得する				

授 業 計 画				
回 数	項 目	内 容		方法
1	ガイダンス 看護と生活・社会との関わり	1 現代社会について考え、人間にとって「社会」とは何か、現代社会の諸課題について解説する		講義
2	個人の生活の理解とQOL	1 個人の生活について学習し、さらに生活の質（クオリティ・オブ・ライフ：QOL）の考え方について学習する		講義
3	社会的な健康	1 WHO の健康の定義について学習し、マズローのニードの5段階とエリクソンの発達課題の中から社会的に良好な状態について考える		講義
4	地域社会とコミュニティ形成	1 地域と個人のつながりについて考え、コミュニティ政策や近隣住区論などのコミュニティ形成に関する基礎知識を習得する		講義
5	生命倫理と科学コミュニケーション	1 看護職者は最先端医療技術に関わる機会が多い。患者に対して医療技術についてどのようなコミュニケーションをとるべきなのか学習する		講義
6～7	バリアフリーとユニバーサルデザイン	1 バリアフリー、ユニバーサルデザインの概念について学習する		講義
8	災害と避難	1 火災時などの病院施設における避難誘導について学習する		講義
9	車椅子体験	1 体育館で車椅子を使った避難誘導に関する体験活動		演習
10～13	福祉まちづくりに関するグループワーク	1 福祉まちづくりについて学習する。グループワークで十日町市のまちづくりについて考える		演習
14	グループワーク発表	1 発表会		
15	試験（90 分）	まとめ		

使用テキスト	ナーシング・グラフィカ 「健康支援と社会保障(1)：健康と社会・生活」第4版	平野 かよ子 渡戸 一郎	メディカ出版
参考図書・資料等	授業中にプリントを配布する		
評価方法	平素の授業状況と定期的に提出を求める課題レポート等の取り組み状況について総合的に判断して行う		

科目名	社会学	時期		時間	単位
担当教員	非常勤講師	1 年次	前期	30 時間	1 単位
学習目標	1 日本の家族の現状について基礎的な知識を身につける 2 家族をとりまく社会の仕組みと人間関係のありかたについて、社会学的なものの見方と知識を身につける				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1	社会学ガイダンス	社会学の基本的視点	講義
2	近代家族の登場	「近代家族」の登場と変遷について	講義
3	近代家族の問題類型	近代家族が抱える問題の類型と特徴について	講義
4	近代家族とアイデンティティ	ファミリーアイデンティティの概念について	講義
5	近代家族の変化	近代家族と恋愛観の変遷について	講義
6	家族責任とジェンダー	近代家族で発生する家族責任とジェンダーの関係	講義
7	家事労働と感情労働	近代家族における家事労働と感情労働の位置付け	講義
8	近代家族の諸問題 1	社会的ひきこもりについて	講義
9	近代家族の諸問題 2	もう一つの家族—里親制度について—	講義
10	近代家族の諸問題 3	近代家族と児童養護問題	講義
11	近代家族の諸問題 4	近代家族と愛着関係	講義
12	ペットは「家族」か？	近代家族とペットの関係	講義
13	学歴と愛情	「愛情表現」としての学歴の形成と教育投資	講義
14	近代家族のこれから	少子高齢化社会と近代家族の行方	講義
15	試験 (90 分)		

使用テキスト	(特にありません)		
参考図書・資料等	参考資料は授業で配布します。		
評価方法	筆記試験		

科目名	地域の人々とのふれあい	時期		時間	単位
担当教員	専任教員・非常勤講師 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	1年次	前期 後期	30時間	2単位
学習目標	1 越後妻有地域の歴史・自然・文化・民俗を理解する 2 民宿に宿泊することを通して、地域の人々とふれあう 3 イベント活動に参加することにより、地域の人々の生活を理解する				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方 法
1	オリエンテーション	1 担当者の紹介 2 科目の展開方法	演習 専任教員 科目担当全講師
2～5	越後妻有地域の歴史・文化	1 十日町地方の歴史 2 雪と織物と信濃川 3 笹山遺跡出土品 (火焰型土器など)	講義・演習 (非常勤講師) 演習会場:十日町市博物館
		1 津南の歴史 2 自然・文化(ジオパークなど) 3 民俗	講義・演習 (非常勤講師) 演習会場:なじよもん
6～13	地域の魅力発見	1 民泊し、地域の人々と語ろう 2 地域の人々の生活体験(例:そば打ち、山菜採り、郷土料理作り、笹団子作り、田植え体験)	演習 民泊と生活体験 (前期と後期1泊ずつ) 専任教員
14～15	フィードバック	1 地域の人々とのふれあいを通して感じたこと、学んだことについてプレゼンテーション	演習 専任教員 科目担当全講師

使用テキスト	十日町市博物館推薦図書
参考図書・資料等	
評価方法	筆記試験、イベントへの参加状況、レポート

科目名	人間関係論	時期		時間	単位
担当教員	専任教員・非常勤講師 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	1年次	前期	30時間	1単位
学習目標	1 クラスメイトの誰とでもコミュニケーションがとれる 2 人間関係の基礎を理解する 3 カウンセリングやコーチング等の技法が習得できる				

授 業 計 画			
回数	項目	内 容	方法
1～4	宿泊研修	1 自己紹介 2 クラスメイトとのコミュニケーション 3 レクリエーション	演習 (専任教員)
5	人間関係の中の自己と他者	1 人間関係論とは 2 自己認知 3 対人認知	講義・演習
6	対人関係と役割	1 対人関係の成立 2 対人関係の維持と崩壊 3 対人葛藤と対処 4 社会的役割	講義・演習
7	態度と対人行動	1 態度と態度変化 2 説得力コミュニケーション 3 攻撃 4 援助	講義・演習
8	集団と個人	1 集団の特性 2 集団での課題遂行 3 集団での問題解決と意思決定	講義・演習
9～10	コミュニケーション	1 コミュニケーションとは 2 対人コミュニケーション 3 マスコミュニケーション 4 ICTの発達とコミュニケーション	講義・演習
11～12	カウンセリングと心理療法	1 カウンセリング・心理療法の理論とスキル 2 看護への応用	講義・演習
13～14	コーチングとアサーティブコミュニケーション	1 コーチングの理論とスキル 2 アサーションの理論とスキル 3 看護への応用	講義・演習
15	試験 (90分)	まとめ	

使用テキスト	系統看護学講座 基礎分野 人間関係論	石川 ひろの 他	医学書院
参考図書・資料等			
評価方法	筆記試験、レポート等		

科目名	教育学	時期		時間	単位
担当教員	非常勤講師	1 年次	前期	30 時間	1 単位
学習目標	1 教育に関する基礎的な概念を理解する 2 教育の対象者への関わり方を理解する 3 発達と教育の関係を理解する 4 専門職としての自らの成長、意味を考える				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1	オリエンテーション 社会の中の看護と教育	第1部 第1章	講義・演習
2	教育とはなにかー「教育の概念」	第1部 第2章	講義・演習
3	教育の対象ー子ども観と発達	第1部 第3章	講義・演習
4	教育の組織化ー学校	第1部 第5章	講義・演習
5	教授ー人を教えるということ	第2部 第2章	講義・演習
6	訓育ー他者とのかかわりを導く 養護ー教育の受け手を見まもる	第2部 第2章 第2部 第3章	講義・演習
7	発達ー教育を受けて成長する	第2部 第4章	講義・演習
8	学びの場ー学校と家庭	第3部 第1章	講義・演習
9	教育の担い手ー専門性と専門職性	第3部 第4章	講義・演習
10	教育の場をつくるしくみ	第3部 第5章	講義・演習
11	キャリア教育（専門教育）	第4部 第1章	講義・演習
12	ジェンダーとセクシュアリティ 特別ニーズ教育・インクルーシヴ教育	第4部 第2章 第4部 第3章	講義・演習
13	生涯学習	第4部 第4章	講義・演習
14	シティズンシップ教育	第4部 第5章	講義・演習
15	試験（90 分）		

使用テキスト	系統看護学講座 基礎分野 教育学	木村 元	医学書院
参考図書・資料等	その都度、提示・紹介する、必要に応じてビデオ教材の使用		
評価方法	毎回のワークシートの提出とプレゼンテーション 40%:講義ごとの出席と理解度を評価する。 試験 60%:期末試験として、目標達成度を最終的に評価する。		

科目名	心理学	時期		時間	単位
担当教員	非常勤講師	1 年次	前期	30 時間	1 単位
学習目標	1 心理学について関心を高める 2 心理学の基礎的知識を得る 3 心理学的視点から自己を理解する				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1	心理学とは	1 心理学の研究対象、歴史、研究方法	講義
2	感覚と知覚	1 感覚・知覚のしくみとはたらき	講義
3	記憶	1 記憶のメカニズム 2 感覚記憶・短期記憶と作業記憶 3 長期記憶と忘却	講義
4	思考、言語、知能	1 思考の定義・分類、問題解決、推論 2 言語の障害と検査 3 知能検査と知能障害	講義
5	学習	1 古典的条件づけ 2 オペラント条件づけと学習の理論 3 社会的学習と効果的な学習方法	講義
6	感情と動機づけ	1 感情のメカニズム 2 動機づけの理論	講義
7	性格とパーソナリティ	1 性格の理論 2 性格の測定	講義
8	社会と集団	1 社会的認知 2 態度と説得的コミュニケーション 3 対人関係と対人魅力 4 集団とリーダーシップ	講義
9～10	発達	1 発達の段階と課題 2 発達の要因 3 発達の各段階の特徴	講義
11	臨床心理	1 心の適応と不適応、心理療法	講義
12	医療・看護と心理学	1 患者の心理、医療職者の心のケア	講義
13	面接の技法	1 患者とのコミュニケーション	講義
14	カウンセリング	1 カウンセリングと心理療法	講義
15	試験 (90 分)		

使用テキスト	系統看護学講座 基礎分野 心理学	山村 豊	医学書院
	看護学生のための心理学	長田 久雄	医学書院
参考図書・資料等	必要に応じて提示・配布する		
評価方法	筆記試験		

科目名	医療倫理	時期		時間	単位
担当教員	非常勤講師	2 年次	前期	30 時間	1 単位
学習目標	1 医療倫理の基本原則を理解する 2 看護倫理を学ぶことの意義がわかる 3 看護の現場にある倫理的課題に気づく 4 看護の現場にある倫理的課題を分析・解決するための方法を理解する				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1～2	倫理学の基本的な考え方と看護倫理について基礎知識	1 倫理の考え方と看護倫理を学ぶ意義 2 生命倫理・看護倫理の歴史 3 倫理理論 4 他者理解と対話のための理論	講義
3～4	生命倫理	1 生命倫理とはなにか 2 生命倫理と看護の倫理原則 3 生命倫理と看護職の責務 4 看護実践上の倫理的概念	講義
5～6	倫理的問題へのアプローチ	1 看護実践における倫理的問題の特徴 2 倫理的問題へのアプローチ法 3 看護学生に必要な倫理的態度 4 医療資源と医療保険制度	講義・演習
7	先端医療と制度をめぐる生命倫理 ①移植医療、再生医療	1 移植医療の歴史と現状 2 移植医療をめぐる生命倫理の課題 3 再生医療の歴史と現状 4 再生医療をめぐる生命倫理の課題	講義
8	先端医療と制度をめぐる生命倫理 ②遺伝子医療	1 性と生命倫理 2 生殖の生命倫理 3 遺伝子医療の歴史と現状 4 遺伝子医療をめぐる生命倫理の課題	講義
9～10	終末期医療・看護の倫理	1 死について 2 死と医療 3 告知についての課題 4 終末期の治療方針についての課題	講義・演習
11～14	専門職としての看護活動と倫理	1 社会からみた看護 2 専門職に求められる倫理 3 チームの医療の必要性 4 チーム医療のなかでの協力・協働 5 倫理的意思決定のステップと事例検討	講義・演習
15	試験 (90 分)		

使用テキスト	系統看護学講座 別巻 看護倫理	宮坂 道夫 他	医学書院
参考図書・資料等			
評価方法	筆記試験、授業・グループワークへの取り組み、レポート		

科目名	英語	時期		時間	単位
担当教員	非常勤講師	1 年次	前期	30 時間	1 単位
学習目標	外来や病棟における看護場面での英会話を学び、基礎的な英会話能力を身につける				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1	【Lesson 1-A・B】 【Lesson 2-A・B】	1 あいさつ、自己紹介 1・2 2 看護技術 1・2	講義・ 演習
2	【Lesson 3-A・B】 【Lesson 4-A・B】	1 症状 1・2 2 受付にて、会計	講義・ 演習
3	【Lesson 5-A・B】 【Lesson 6-A・B】	1 風邪、胃の痛み 2 内科—慢性腎不全、内科—関節症	講義・ 演習
4	【Lesson 7-A・B】 【Lesson 8-A・B】	1 外科—胆石症、外科—虫垂炎 2 小児科—喘息、内科—摂食障害	講義・ 演習
5	【Lesson 9-A・B】 【Lesson 10-A・B】	1 眼科—老人性白内障、耳鼻咽喉科—急性虫垂炎、 2 皮膚科—アトピー性皮膚炎—泌尿器科—前立腺肥大症	講義・ 演習
6	【Lesson 11-A・B】 【Lesson 12-A・B】	1 産科—妊娠、放射線科—X線治療 2 歯科—虫歯、歯科—歯肉炎	講義・ 演習
7	【Lesson 13-A・B】 【Lesson 14-A・B】	1 救命救急室—交通事故、救急—心肺蘇生法、 2 肺がん検査、乳がん検査	講義・ 演習
8	中間テスト・まとめ		
9	【Lesson 15-A・B】 【Lesson 16-A・B】	1 心臓検査—ホルター心電図、大腸検査、 2 入院手続き、病室にて	講義・ 演習
10	【Lesson 17-A・B】 【Lesson 18-A・B】	1 脳卒中、心臓ペースメーカー、 2 手術の翌朝、術後 3 日	講義・ 演習
11	【Lesson 19-A・B】 【Lesson 20-A・B】	1 糖尿病、退院指導、 2 足骨折、内分泌疾患—バセドウ病	講義・ 演習
12	【Lesson 21-A・B】 【Lesson 22-A・B】	1 陣痛と出産、肝臓の病気 2 肺炎、骨粗鬆症	講義・ 演習
13	【Lesson 23-A・B】 【Lesson 24-A・B】	1 介護認定、在宅ケア—認知症、 2 訪問介護—入浴サービス、デイサービス	講義・ 演習
14	【Lesson 25-A・B】	1 介護老人保健施設（老健）、介護老人福祉施設（特養）	講義・ 演習
15	試験（90 分）	まとめ	

使用テキスト	看護英会話入門 第 3 版	植木 武／ドレール・タウン	医学書院
参考図書・資料等			
評価方法	筆記試験、口答試験、授業中の発表、出席などから総合的に評価する。		

科目名	看護学概論	時期		時間	単位
担当教員	副学校長・非常勤講師	1 年次	前期	30 時間	1 単位
学習目標	1 看護の概念を学び、看護の本質と役割を理解する 2 看護の対象と健康の概念について学ぶ 3 看護における倫理について学ぶ 4 看護提供のしくみと看護活動領域を理解する				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1	医学概論	1 近年の医療を取り巻く状況の変化	講義 (非常勤講師)
2～3	看護とは	1 看護の本質 2 看護の役割と機能 3 看護の継続性と情報交換	講義 (副学校長)
4～5	看護の対象の理解	1 人間のこころとからだ 2 生涯発達しつづける存在としての人間 3 人間の暮らしの理解	講義 (副学校長)
6～7	国民の健康状態・生活の全体像の把握	1 健康のとらえ方 2 国民の健康の全体像 3 国民のライフサイクルと健康・生活 4 現代の日本人の健康と生活を考える	講義 (副学校長)
8～9	看護の提供者	1 職業としての看護 2 看護師の資格と養成にかかわる制度 3 看護職者の就業状況と継続教育 4 看護職の養成制度の課題	講義 (副学校長)
10～11	看護における倫理	1 現代社会と倫理 2 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理 ハンセン氏病・B型肝炎 等 3 看護実践における倫理問題への取り組み	講義 (副学校長)
12～13	看護の提供の仕組み	1 サービスとしての看護 2 看護サービスの提供の場 3 看護をめぐる制度と政策 4 看護サービスの管理 5 医療安全と医療の質保証	講義 (副学校長)
14	広がる看護の活動領域	1 国際看護 2 災害時における看護	講義 (副学校長)
15	試験 (90 分)		

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔1〕 看護学概論	茂野香おる 他	医学書院
	看護者の基本的責務 定義・概念／基本法／倫理	日本看護協会出版会	
参考図書・資料等	DVD 看護教育概論 日本の看護 GHQ による看護改革 DVD 目で見る国際看護 国際看護の現状		
評価方法	筆記試験、課題レポート、演習、出席状況などから総合的に判断する		

科目名	看護理論	時期		時間	単位
担当教員	副学校長	1 年次	後期	30 時間	1 単位
学習目標	1 看護理論が看護実践と研究に果たす役割を学ぶ 2 F. ナイチンゲールおよびV. ヘンダーソンの看護理論の概要を説明できる 3 各看護理論の特徴を学ぶ				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1	看護理論とは	1 看護理論とは何か 2 看護理論の分類 3 看護理論の変遷 4 看護理論が看護実践と研究に果たす役割	講義・演習
2～5	F. ナイチンゲール	1 人間の健康と環境 2 病気及び病人 3 観察について 4 看護について 5 看護する人に求める事柄	講義・演習
6～9	V. ヘンダーソン	1 人間とは、環境とは、健康とは、看護とは 2 常在条件と病理的状态 3 基本的看護の構成要素	講義・演習
10～12	看護理論家	1 理論家の背景・理論の源泉となったもの、 主要概念・実践への適応等 (1) ヒルデガード・E・ペプロウ (2) ドロセア・E・オレム (3) シスター・カリスタ・ロイ (4) パトリシア・ベナー	講義・演習
13～14	中範囲理論	1 中範囲理論とは 2 看護における中範囲理論とは 3 危機・ストレス・不確かさの認知や対処に関する理論 4 行動変容、行動強化に関する理論	講義・演習
15	試験 (90 分)		

使用テキスト	看護覚え書 ー看護であること看護でないことー	F. ナイチンゲール 湯槇 ます 他 訳	現代社
	看護の基本となるもの	V. ヘンダーソン 湯槇 ます 他 訳	日本看護協会 出版社
	ケースを通してやさしく学ぶ看護理論 改訂 4 版	黒田 裕子	日総研出版
	系統看護学講座 専門分野 I 看護学概論 基礎看護学 [1]	茂野香おる	医学書院
	事例を通してやさしく学ぶ中範囲理論入門	佐藤 栄子	日総研出版
参考図書・資料等	DVD 看護論シリーズ 1. バージニア・ヘンダーソン DVD 看護論シリーズ 8. フローレンス・ナイチンゲール		
評価方法	筆記試験、レポート、演習参加状況、出席状況などから総合的に判断する。		

科目名	臨床看護総論	時期	30 時間	1 単位
担当教員	専任教員・非常勤講師 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	1 年次	後期	30 時間 1 単位
学習目標	1 健康障害を持つ対象の特徴を理解し生活の質を維持・向上する看護の実践方法を修得する 2 主要症状を示す対象の特徴を理解し看護の実践方法を修得する			

授 業 計 画				
回 数	項 目	内 容	方法	
1～2	健康上のニーズをもつ対象者と家族への看護	1 ライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康上のニーズ 2 家族の機能からとらえた対象者と家族の健康上のニーズ 3 生活と療養の場からとらえた対象者と家族の健康上のニーズ	講義 (専任教員)	
3～5	健康状態の経過に基づく看護	1 健康状態と看護 2 健康の維持・増進を目ざす看護 3 急性期における看護 4 慢性期における看護 5 リハビリテーション期における看護 6 終末期における看護	講義 (専任教員)	
6～9	主要な症状を示す対象者への看護	1 呼吸に関連する症状を示す対象者への看護 2 循環に関連する症状を示す対象者への看護 3 栄養や代謝に関連する症状を示す対象者への看護 4 排泄に関連する症状を示す対象者への看護 5 活動や休息に関連する症状を示す対象者への看護 6 認知や知覚に関連する症状を示す対象者への看護 7 コーピングに関連する症状を示す対象者への看護 8 安全や生体防御機能に関連する症状を示す対象者への看護 9 安楽に関連する症状を示す患者への看護	講義 (専任教員)	
10～12	治療・処置を受ける対象者の看護	1 輸液療法を受ける対象者の看護 2 化学療法を受ける対象者への看護 3 放射線治療を受ける対象者への看護 4 手術療法を受ける対象者への看護 5 集中治療を受ける対象者への看護 6 身体侵襲を伴う検査・治療を受ける対象者への看護 (1) 血液検査 (2) 穿刺液検査 (3) 内視鏡検査 (4) X線検査 (5) CT検査 (6) MRI検査 (7) IVR・血管造影等	講義 (専任教員)	
13～14	医療機器の原理と実際	1 医療機器を安全に使うために (1) 医療ガス 2 測定用医療機器の原理と実際 (1) 心電図 (2) 血圧計 (3) パルスオキシメータ 3 治療用医療機器の原理と実際 (1) 人工呼吸器 (2) 吸引装置 (3) 吸入療法機器 (4) 輸液ポンプ (5) 除細動器 4 医療機器使用時の看護	講義 (非常勤講師)	
15	試験 (90 分)			

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[4] 臨床看護総論	香春 和永	医学書院
	系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学	青木 学 等	医学書院
	系統看護学講座 別巻 臨床検査	奈良 信雄 等	医学書院
参考図書・資料等			
評価方法	筆記試験 課題レポート		

科目名	看護の基本技術	時期		時間	単位
担当教員	専任教員 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	1 年次	前期	30 時間	1 単位
学習目標	1 看護技術の構成要素及び原理原則を理解し、看護技術を実践する方法を修得する 2 人間関係を形成するためのコミュニケーション技術を習得する 3 看護記録の意義と留意事項を理解する 4 報告の必要性と方法を理解する 5 看護における学習支援の方法を理解する				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1～3	コミュニケーション	1 看護技術の定義と看護師に求められること 2 看護技術の基本原則 3 看護におけるコミュニケーションの必要性 4 看護におけるコミュニケーションの過程 5 コミュニケーションに障害がある対象への効果的な対応 6 対象を支援するコミュニケーション (1) 共感的態度 (2) アサーティブネス	講義・演習
4～8	看護記録	1 看護記録の法的位置づけ 2 看護記録の規定 3 看護記録の意義・目的と機能 4 看護記録の構成（SOAP、フローシート等）と方法 5 記載・管理における留意点 (1) 記録管理と情報開示 (2) 守秘義務とセキュリティの確保	講義・演習
9～12	報告の必要性と方法	1 看護における報告の必要性 2 看護における報告の種類 3 報告の必要な場面	講義・演習
13～14	学習支援	1 看護における学習支援 2 対象の健康状態に合わせた学習支援の方法	講義
15	試験(90 分)		

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I	有田 清子 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II	有田 清子 他	医学書院
参考図書・資料等			
評価方法	筆記試験 技術試験		

科目名	フィジカルアセスメント	時期		時間	単位
担当教員	専任教員 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	1年次	前期 後期	30 時間	1 単位
学習目標	1 フィジカルアセスメントの目的と看護の役割が理解できる 2 バイタルサイン、身体測定、系統的フィジカルアセスメントの技術が習得できる				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1～2	ヘルスアセスメント	1 ヘルスアセスメントとは 2 フィジカルアセスメントとは 3 フィジカルアセスメントにおける基本技術 (1) 問診 (2) 視診 (3) 触診 (4) 聴診 (5) 打診	講義
3～8	一般状態のアセスメント： バイタルサイン	1 バイタルサインの観察とアセスメント (1) 体温 (2) 脈拍 (3) 呼吸 (4) 血圧 (5) 意識	講義・演習 【演習】 〈レベルⅠ〉 111. バイタルサインの測定（技術試験）112. 身体計測
	一般状態のアセスメント： 身体計測	2 身体計測の留意事項と実際 (1) 身長 (2) 体重 (3) 腹囲 (4) 皮下脂肪厚	
9～14	身体機能別のアセスメント	1 呼吸系と循環系のフィジカルアセスメントの進めかた 2 呼吸系のフィジカルアセスメントの進めかた 3 循環系のフィジカルアセスメントの進めかた 4 消化系のフィジカルアセスメント 5 感覚系のフィジカルアセスメント 6 運動系フィジカルアセスメント 7 中枢神経系フィジカルアセスメント	講義・演習 〈レベルⅣ〉 109. 意識レベルの把握
15	試験(90分)		

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ	有田 清子 他	医学書院
	フィジカルアセスメントガイドブック第2版	山内豊明	医学書院
参考図書・資料等	DVD 山内豊明教授のフィジカルアセスメント 第4巻 呼吸器のアセスメント② DVD 山内豊明教授のフィジカルアセスメント 第5巻 循環器のアセスメント DVD 山内豊明教授のフィジカルアセスメント 第6巻 消化機能のアセスメント		
評価方法	筆記試験・技術試験・レポート		

科目名	看護過程	時期		時間	単位
担当教員	専任教員 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	1年次	後期	30時間	1単位
学習目標	看護過程の構成要素と展開方法の実際がわかる。				

授 業 計 画				
回数	項目	内 容	方法	
1	看護過程とは	1 看護過程の歴史的 개념 2 看護過程の必要性 3 問題解決技法と看護過程 4 看護過程の特性 5 看護過程の構成要素	講義	
2～4	データ収集 アセスメント	1 看護アセスメントの意義 2 情報収集とは 3 情報収集の方法、情報源 4 ゴードンの11の機能的健康パターンの枠組み 5 情報分析 6 アセスメントの進め方	講義・演習 【個人課題】 情報整理と分析 【演習】 ・事例1のパターン毎の分析・関連図 ・アセスメントと看護問題の明確化（グループ検討・発表）	
5～6	全体像	1 全体像の意味 2 全体像演習	講義・演習 【演習】 ・事例1の計画立案（グループ検討・発表）	
7～8	看護問題の明確化	1 看護問題と看護診断 2 看護問題・共同問題・医学診断 3 重点アセスメントと看護診断の明確化 4 優先順位の決定		
9～10	計画立案	1 看護目標の設定 2 計画の分類 3 計画立案の実際	講義・演習 【演習】 ・事例1の計画立案（グループ検討・発表）	
11～12	評価	1 看護における評価 2 目標達成度の測定 3 目標達成に影響を及ぼす変数 4 計画の変更		
13～14	事例を用いた看護過程の展開	1 ペーパーペイシェント演習	講義・演習 【個人課題】 ・事例2の看護過程の展開	
15	試験(90分)			

使用テキスト	実践に役立つ看護過程と看護診断 第2版 ―ヘンダーソン・ゴードンのデータベースに基づく事例展開―	三上 れつ	ヌーベルヒロカワ
	ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践 第3版 看護アセスメント ―同一事例による比較―	渡邊 トシ子	ヌーベルヒロカワ
	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ	有田 清子 他	医学書院
	看護過程に沿った対症看護 第4版 ―病態生理と看護のポイント―	高木 永子 他	学研メディカル秀潤社
参考図書・資料等			
評価方法	筆記試験、レポート、演習への取り組みを総合的に評価する		

科目名	生活の援助技術Ⅰ	時期		時間	単位
担当教員	専任教員 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	1年次	前期	30時間	1単位
学習目標	対象の生活を整えるための病床環境および活動と休息の援助技術を修得する				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方 法
1～8	病床環境	1 「環境とは」とその分類 2 健康生活における環境調整の重要性 3 望ましい生活環境 (1) 清潔と整頓 (2) 気温・気湿・気流 (3) 室内空気 (4) 採光 (5) 物音 (6) 感覚的満足 (7) プライバシー 4 病床の整備 (1) 病床の構成 (2) ベッドメイキング (3) 毎日の病床環境 (4) シーツ交換	講義・演習 【演習】 〈レベルⅠ〉 1. 病床環境の調整 2. ベッドメイキング 〈レベルⅡ〉 3. リネン交換
9～14	活動と休息	1 看護におけるボディメカニクスの必要性 2 ボディメカニクスの実践 3 活動と運動、休息と睡眠の意義 4 体位変換の意義と同一体位による障害 5 体位変換、移動の援助方法	講義・演習 【演習】 〈レベルⅠ〉 27. 車椅子移送 28. 歩行・移動介助 〈レベルⅡ〉 32. 臥床患者の体位変換 33. 37. 移乗(ベッドから車椅子、ベッドからストレッチャー) 38. ストレッチャー移送
15	試験(90分)		

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ	有田 清子 他	医学書院
	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版	任 和子 他	医学書院
参考図書・資料等	DVD 実践！看護技術シリーズ 日常生活の援助技術編 Vol.1 ベッドメイキング		
評価方法	筆記試験、演習への取り組み、技術試験などから総合的に評価する		

科目名	生活の援助技術Ⅱ	時期		時間	単位
担当教員	専任教員 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	1年次	前期	30時間	1単位
学習目標	1 対象の生活を整えるための食生活および排泄の援助技術を修得する 2 罨法の種類と罨法が身体に及ぼす影響を理解する				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方 法
1～5	栄養と食事	1 人間にとっての「食べる」ことの意義 2 食習慣の成り立ちと食の安全 (1) 食事と日常生活 (2) 食の安全(社会の動向) 3 食欲と摂食行動 (1) 食欲の調節: 食欲を左右する因子 (2) 消化吸収及び排泄の機構 3 食事の援助方法 (1) 健康な食習慣と食事管理 (2) 食欲増進のための援助 (3) 食事介助(誤嚥予防含む)	講義・演習 【演習】 〈レベルⅠ〉 4. 食事介助 5. 食事摂取状況のアセスメント
6～13	排泄	1 排泄の意義 2 排泄の生理 3 排泄に関するアセスメント 4 排泄の援助方法 (1) 健康的で自然な排便習慣をつけるための援助 (2) 床上での排尿困難が生じた場合 (3) 便器・尿器を使用する患者の援助 (4) おむつを使用する患者への援助 (5) 排便困難な患者への援助 (6) 摘便	講義・演習 【演習】 〈レベルⅠ〉 14. 15. 16. 18. 19 排泄援助(便器介助、尿器介助、おむつ交換) マッサージ 〈レベルⅢ〉 23. グリセリン浣腸 〈レベルⅣ〉 25. 摘便
14	罨法	1 罨法の意義 2 罨法の援助方法 (1) 温罨法 (2) 冷罨法(氷枕)	講義・演習 【演習】 〈レベルⅠ〉 57. 温罨法・冷罨法 58. 体温調節の援助
15	試験(90分)		

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ	有田 清子 他	医学書院
	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版	任 和子 他	医学書院
参考図書・資料等	DVD 実践!看護技術シリーズ 日常生活の援助技術編 Vol.4 食事の介助 DVD 実践!看護技術シリーズ 排泄の援助技術編 Vol.1 排尿・排便の援助		
評価方法	筆記試験、演習への取り組み、レポートから総合的に評価する 基本的な摘便の方法、実施上の留意点が見える(レベルⅣ)		

科目名	生活の援助技術Ⅲ	時期		時間	単位
担当教員	専任教員 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	1 年次	前期	30 時間	1 単位
学習目標	対象の生活を整えるための身体の清潔および衣生活の援助技術を修得する				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1～10	身体の清潔	1 身体の清潔の意義 2 清潔援助の基礎知識 (1) 皮膚粘膜の構造と機能 (2) 清潔援助の効果 3 対象の状態にあった援助方法の選択 (1) アセスメント (2) 援助方法の決定 (3) 援助の留意点 4 援助方法 (1) 入浴、シャワー浴 (2) 清拭 (3) 洗髪 (4) 手浴、足浴 (5) 陰部洗浄 (6) 口腔ケア (7) 整容(洗面、眼・耳・鼻・爪・髭剃り)	講義・演習 【演習】 〈レベルⅠ〉 42. 足浴・手浴 46. 身だしなみを整えるための援助(整容) 〈レベルⅡ〉 41. 48. 入浴介助 49. 陰部洗浄 43. 50. 清拭 44. 51. 洗髪 45. 52. 口腔ケア
11～14	衣生活	1 衣類を用いる定義 2 衣生活援助の基礎知識 3 対象の状態にあった援助方法の選択 4 援助方法 (1) 寝衣の選択 (2) 寝衣交換	講義・演習 【演習】 〈レベルⅠ〉 47. 54. 寝衣交換
15	試験(90 分)		

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ	有田 清子 他	医学書院
	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版	任 和子 他	医学書院
参考図書・資料等	DVD 実践！看護技術シリーズ 清潔の援助編 Vol.2 全身清拭・陰部洗浄、Vol.3 洗髪、Vol.4 部分浴、Vol.5 口腔ケア		
	DVD 実践！看護技術シリーズ 日常生活援助 Vol.2 リネン・寝衣の交換		
評価方法	筆記試験、レポート、演習への取り組みから総合的に評価する		

科目名	診療の補助技術Ⅰ	時期		時間	単位
担当教員	専任教員 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	1年次	後期	30時間	1単位
学習目標	1 与薬の看護技術を習得する 2 輸血の看護技術を習得する				

授 業 計 画				
回数	項目	内 容	方法	
1～12	与薬	1 薬事法と日本薬局方 (1) 薬物の管理 (2) 与薬の経路 (3) 誤薬防止の与薬方法 2 経口方法 (1) 内服 (2) 口腔内与薬法 3 注射法 (1) 薬液の吸い上げ（アンプル、バイアル） (2) 注射の実施方法 ア 注射の安全・安楽 イ 皮内注射、皮下注射、筋肉内注射 ウ 静脈内注射 (ア) ワンショット (イ) 点滴静脈内注射 4 その他の与薬法 (1) 経皮的与薬 (2) 直腸内与薬 (3) 点眼 (4) 点鼻 (5) 吸入	講義・演習 【演習】 〈レベルⅡ〉 78. 79. 80. 与薬前後の観察（経口・経皮・直腸内・外用剤） 138. 誤薬防止 81. 点滴静脈内注射（観察） 〈レベルⅢ〉 82. 直腸内与薬 83. 86. 点滴静脈内注射（実施、管理） 84. 皮下注射 85. 筋肉内注射 〈レベルⅣ〉 88. 経口与薬方法 89. 経皮薬・外用薬与薬方法 94. 95. 96. 静脈内注射（実施方法・危険性・異常な状態） 91. 92. 93. 97 皮内・皮下・筋肉内・抗生剤注射後の観察 薬剤（毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤）の管理方法〈レベルⅢ〉	
13～14	輸血	1 輸血療法の基礎知識 2 輸血療法の方法	講義 〈レベルⅣ〉 102. 輸血管理（輸血前・中・後の観察）	
15	試験(90分)			

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3]	有田 清子 他	医学書院
	基礎看護技術Ⅱ		
	根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医療安全ワークブック 第3版	任 和子 他 川村 治子	医学書院 医学書院
参考図書・資料等	DVD 実践！看護技術シリーズ 診療に係わる技術編 Vol 3 与薬、Vol 4 注射、Vol 5 輸液、Vol 7 輸血		
評価方法	筆記試験、課題レポート（経口薬の種類と服薬方法がわかる、経皮・外用薬の与薬方法がわかる、静脈内注射実施中の異常な状態がわかる、皮内注射後の観察点がわかる、静脈注射の実施方法がわかる、皮下注射後の観察点がわかる、筋肉内注射後の観察点がわかる、毒薬・劇薬・麻薬の管理方法がわかる）		

科目名	診療の補助技術Ⅱ	時期		時間	単位
担当教員	専任教員 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	1年次	後期	30時間	1単位
学習目標	1 感染防止の看護技術を修得する 2 創傷管理の看護技術を修得する				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1～7	感染防止の技術	1 感染防止の基礎知識 2 標準予防策 3 感染経路別予防策 4 洗浄・消毒・滅菌 5 無菌操作と滅菌物の取り扱い 6 感染性廃棄物の取り扱い 7 針刺し防止策 8 無菌操作の技術 (1) 膀胱留置カテーテル (2) 導尿	講義・演習 【演習】〈レベルⅠ〉 17. 膀胱留置カテーテル挿入 中の患者の観察 125. スタンダード・プリコーション 〈レベルⅡ〉 126. 個人防護具の装着 127. 128. 感染性廃棄物の取り扱い 129. 無菌操作（ドレーン挿入部も含む） 130. 針刺し事故防止の対策〈レベルⅣ〉 131. 針刺し事故後の感染防止の方法
8～14	創傷管理技術	1 創傷管理の目的、方法、適応 2 創傷の処置方法 3 包帯法の基礎知識 4 包帯の技術 (1) 巻軸包帯の巻き方の種類 (2) 三角巾による提肘固定 (3) 止血法	講義・演習 〈レベルⅢ〉 75. 包帯法の実施 〈レベルⅣ〉 110. 止血法の原理がわかる
15	試験(90分)		

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ	有田 清子	医学書院
	基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ	他	
	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版	任 和子 他	医学書院
	医療安全ワークブック 第3版	川村 治子	医学書院
参考図書・資料等	DVD 実践！看護技術シリーズ 感染予防編 Vol.1 スタンダード・プリコーション、Vol.2 消毒・滅菌と無菌操作 排泄の援助技術編 Vol.3 導尿・膀胱留置カテーテル		
評価方法	創傷処置に用いられる代表的な消毒薬の特徴がわかる（レベルⅣ） 針刺し事故後の感染予防の方法がわかる（レベルⅣ） 筆記試験、課題レポート、技術試験：無菌操作		

科目名	診療の補助技術Ⅲ	時期		時間	単位
担当教員	専任教員 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	1年次	後期	30時間	1単位
学習目標	1 診察・治療に伴う看護技術を修得する 2 呼吸・循環を整える看護技術を修得する				

授 業 計 画			
回数	項目	内 容	方法
1～7	診察・検査に伴う看護技術	1 診察の介助 2 診察器具 3 検査の目的と検査時における看護の役割 4 検体や器具の取り扱い 5 対象者の心理面への援助 6 安全と安楽 7 検査の方法と種類 (1) X線撮影 (2) コンピュータ断層撮影 (3) 磁気共鳴映像 (4) 内視鏡検査 (5) 超音波 (6) 肺機能 (7) 核医学 8 検体の採取と取扱い (1) 尿検査 (2) 便検査 (3) 喀痰検査 (4) 穿刺の介助 (5) 血液検査(採血) 9 検査値の読み方 血液検査	講義・演習 【演習】 〈レベルⅡ〉 ・116. 尿検体 〈レベルⅢ〉 122. 静脈血採血の実施 〈レベルⅣ〉 123. 血液検体の取り扱い方がわかる 124. 検査の目的・方法 検・査が生体に及ぼす影響がわかる
8～14	呼吸・循環を整える技術	1 酸素吸入療法 (1) 目的 (2) 酸素投与器具とその特徴 2 吸引の技術 (1) 目的 (2) 一時的吸引：口腔・鼻腔 3 吸入の技術 (1) 目的と種類 (2) ネブライザー	講義・演習 【演習】 〈レベルⅠ〉 56. 酸素吸入療法の観察 (レベルⅡ) 61. 気道内加湿の実施 〈レベルⅢ〉 62. 口腔内・鼻腔内吸引の実施 64. 体位ドレナージの実施 65. 酸素ボンベの操作 〈レベルⅣ〉 67. 酸素の管理方法
15	試験(90分)		

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ	有田 清子 他	医学書院
	系統看護学講座 別巻 臨床検査	奈良 信雄 他	医学書院
	系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学	青木 学 他	医学書院
	根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術	任 和子 他	医学書院
	医療安全ワークブック 第3版	川村 治子	医学書院
参考図書・資料等	DVD 実践！看護技術シリーズ診療に係わる技術編 Vol.1 検査時の看護Ⅰ、Vol.2 検査時の看護Ⅱ DVD 看護のための酸素吸入療法 Vol.2 酸素吸入療法の実際		
評価方法	筆記試験、課題レポート、演習参加状況、出席状況などから総合的に判断する		

科目名	基礎看護学実習	3 単位	135 時間
-----	---------	------	--------

I 基礎看護学実習 I (1 単位 45 時間)

実習目的	入院している患者を理解し、その人に必要な日常生活援助を実施するための基礎的な能力を修得する		
実習目標	基礎看護学実習 I－①	1 患者の入院療養環境を理解する 2 患者の健康障害が日常生活に及ぼす影響を理解する 3 看護師のサポートを受けながら患者とコミュニケーションがとれる	
	基礎看護学実習 I－②	1 看護の機能と役割を理解する 2 患者の日常生活行動が観察できる 3 患者のニーズと個別性に応じた日常生活援助の必要性を理解する 4 患者に応じた日常生活援助を安全・安楽に実施できる 5 実習を通して看護師を目指す上での自己の課題を考察する	

II 基礎看護学実習 II (2 単位 90 時間)

実習目的	健康上の課題をもつ対象に既修の知識・技術と看護過程の技法を用い、個別的な看護を実践するための基礎的な能力を修得する		
実習目標	1 積極的にコミュニケーションをとり、対象との良好な人間関係を築く 2 対象の機能的健康パターンに基づくアセスメントを踏まえ、看護過程を展開する 3 対象の看護問題を明確化する 4 対象の安楽と自立を考え、安全に実施できる援助を計画し、実践する 5 看護実践を通して自己を振り返り、看護師になる人としての覚悟を決める		

科目名	小児看護学概論	時期		時間	単位
担当教員	専任教員 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	2年次	前期	30時間	2単位
学習目標	1 小児看護の対象となる子どもの特徴を理解する 2 小児と家族の概況を諸統計から理解する 3 各期の子どもの特徴に応じた看護を理解する 4 子どもと家族を取り巻く社会の変遷と児童福祉・母子保健施策などの関連を学び看護職の役割を理解する 5 病気・障害、入院などが小児・家族に与える影響を理解する				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1～2	小児看護の特徴と理念	1 小児看護の対象および目標・役割 2 小児と家族の諸統計 3 小児看護の変遷 4 小児看護における倫理および小児看護の課題	講義
3～4	子どもの成長・発達	1 成長・発達とは 2 成長発達の進み方・成長発達に影響する因子 3 成長の評価・発達の評価	講義
5	子どもの栄養	1 子どもにとっての栄養の意味 2 子どもの食育・食事摂取基準 3 発達段階別の子どもの栄養の特徴と看護	講義
6～8	各期の子どもの特徴	1 新生児・乳児、幼児・学童、思春期・青年期の子どもの成長・発達、健康、家族、看護	講義
9	家族の特徴とアセスメント	1 子どもにとっての家族とは、家族アセスメント	講義
10～11	子どもと家族を取り巻く社会	1 児童福祉、母子保健、医療費の支援、予防接種、学校保健、特別支援教育、臓器移植法	講義
12～14	臨床における看護	1 病気・障害をもつ子どもと家族の看護 (1) 病気・障害の影響 (2) 子どもの健康問題と家族 2 子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護 (1) 入院中・外来 (2) 在宅療養 (3) 災害時 3 子どもにおける疾病の経過と看護 (1) 慢性期・急性期・周手術期・終末期の子どもと家族の看護 4 障害のある子どもと家族の看護 (1) 障害のとらえ方 (2) 家族の特徴と社会支援	講義
15	試験(90分)		

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論	奈良間 美保 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ小児看護学[2] 小児臨床看護各論	奈良間 美保 他	医学書院
	国民衛生の動向		厚生統計協会
参考図書・資料等	DVD 目で見る子どもの保健 成長・発達編 Vol.1 成長(発育)・発達と保健		
評価方法	筆記試験・平常点(レポート・出席状況など)を総合的に評価する		

科目名	小児看護援助論Ⅰ	時期		時間	単位
担当教員	非常勤講師	2年次	後期	30 時間	1 単位
学習目標	健康障害や疾患をもつ子どもと家族への援助方法を理解する				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1～2	ネフローゼ症候群の子どもの看護	1 病態の理解と看護 2 経過別看護 (1) 急性期、回復期、症状消失後、退院に向けて (2) 家族への援助・学校との連携	講義
3～4	川崎病の子どもの看護	1 病態の理解と看護 2 経過別看護 (1) 急性期、回復期 (2) 家族への援助	講義
5	食物アレルギーの子どもの看護	1 食物アレルギーの子どもの看護 (1) アレルギー症状に対する看護 (2) 予防と日常生活における注意	講義
6～7	気管支喘息の子どもの看護	1 気管支喘息の子どもの看護 (1) 病態の理解 (2) 喘息発作への対応 ア 理学療法（腹式呼吸・排痰） イ 薬物療法 ウ 吸入療法 エ 酸素 オ 輸液療法 (3) 予防 ア 環境調整 イ 運動療法	講義
8～11	感染症の子どもの看護	1 感染症の子どもの看護（麻疹、無菌性髄膜炎、百日咳、ロタウイルス感染症、ノロウイルス感染症、乳児難治性下痢症） (1) 病態の理解 (2) 治療・処置別看護 (3) 日常生活指導と家族への援助	講義
12～14	低出生体重児の看護	1 病態の理解 2 胎外生活への適応を支える看護 (1) 体温調節、呼吸の調整、循環の調整、水分・電解質の調整 (2) 低血糖予防、感染予防 3 成長・発達を支える看護 (1) ふれあい・安楽な姿勢の保持 (2) 授乳 (3) 環境調整、支援体制の整備、家族への援助	講義
15	試験 (90 分)		

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論	奈良間 美保 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論	奈良間 美保 他	医学書院
参考図書・資料等			
評価方法	筆記試験・平常点（レポート・出席状況など）を総合的に評価する		

科目名	小児看護援助論Ⅱ	時期		時間	単位
担当教員	専任教員 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	2年次	後期	30 時間	1 単位
学習目標	1 子どものアセスメントに必要な知識と技術を理解する 2 子どもの症状に応じた看護、検査・処置を受ける子どもの看護を理解する 3 小児看護における看護過程のプロセスを理解する				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1～2	子どものアセスメント	1 アセスメントに必要な技術 (1) コミュニケーション (2) バイタルサイン、身体測定 2 身体的アセスメント	講義・演習
3	症状を示す子どもの看護	1 小児の主な症状と看護 (1) 不きげん、啼泣、痛み、チアノーゼ、ショック、けいれん、発熱、嘔吐、下痢、便秘、脱水	講義
4～6	検査・処置を受ける子どもの看護	1 検査・処置総論 2 薬物動態と薬容量の決定 3 検査・処置と看護 (1) 与薬、輸液管理、輸液管理 (2) 抑制、検体採取 (3) 排泄 4 呼吸困難の緩和 (1) 吸引 (2) 酸素療法 (3) 吸入療法 5 救命処置 (1) 意識・呼吸状態の観察 (2) 心肺蘇生法、気道確保・人工呼吸法、気道内異物除去	講義・演習
7～8	白血病の子どもの看護	1 病態の理解 2 経過別看護 (1) 確定診断から治療開始 (2) 初期寛解から治療終了 (3) 入院治療終了、外来通院開始 (4) 再燃・再発 (5) 家族への援助	講義
9～14	看護過程	1 演習事例 白血病をもつ子どもの看護（演習：「入院中の遊び」含む）	講義・演習
15	試験 (90 分)		

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論	奈良間 美保 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論	奈良間 美保 他	医学書院
	写真でわかる小児看護技術アドバンス		インターメディカ
参考図書・資料等	DVD 目で見える子どもの保健 病気編 Vol.2 感染症 Vol.3 免疫とアレルギー疾患		
評価方法	筆記試験・平常点（レポート・出席状況など）を総合的に評価する		

科目名	小児看護学実習	2単位	90時間
-----	---------	-----	------

実習目的	小児看護の対象である子どもの特徴を理解し、成長・発達段階及び健康状態に応じた看護実践に必要な基礎的能力を修得する
実習目標	1 乳幼児期の子どもの成長・発達の特徴及び子どもとのコミュニケーションの方法を理解する 2 学童期の子どもの成長・発達の特徴及び学校における健康の保持・増進活動を理解する 3 成長・発達に不安のある子どもと家族への支援について理解する 4 入院している子どもの成長・発達段階と健康状態及びその家族について理解する 5 健康障害のある子どもとその家族に必要な援助を実施する 6 外来における看護の特徴を理解する 7 N I C Uにおける看護の特徴を理解する

科目名	成人看護学概論	時期		時間	単位
担当教員	専任教員 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	1年次	後期	30時間	2単位
学習目標	1 成人の特徴と生活、健康問題を理解する 2 成人への看護アプローチの基本を理解する 3 成人の健康レベルに応じた看護の原理を理解する 4 成人の健康生活を促すための看護を理解する				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1～2	成人の特徴と生活	1 対象の理解 (1) 青年期、壮年期・中年期、向老期の発達課題 2 対象の生活	講義
3～5	生活と健康	1 成人をとりまく環境と生活の状況 2 成人の健康の状況 (1) 健康格差 (2) 職業性・業務上疾病 (3) 受療状況 (4) 生活習慣病(高尿酸血症、脂質異常症、肥満) など 3 生活と健康をまもりはぐくむシステム	講義・演習
6～7	成人への看護アプローチの基本	1 生活のなかで健康行動を生みはぐくむ援助 2 健康問題をもつ大人と看護師の人間関係 3 人々の集団における調和や変化を促す看護アプローチ 4 チームアプローチ 5 看護におけるマネジメント 6 看護実践における倫理的判断 7 意思決定支援と家族支援	講義
8～10	健康レベルに対応した看護	1 ヘルスプロモーションと看護 2 健康を脅かす要因と看護 3 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 4 慢性病との共存を支える看護 5 障害がある人の生活とリハビリテーション 6 人生の最期のときを支える看護	講義
11～14	成人の健康生活を促すための看護	1 学習者である患者への看護の原理 2 治療過程にある患者への看護 3 症状マネジメントにおける看護 4 療養の場を移行する人々への看護 5 新たな治療法、先端医療と看護	講義
15	試験 (90 分)		

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1] 成人看護学総論	小松 浩子 他	医学書院
	国民衛生の動向		厚生統計協会
	生活習慣病のしおり		社会保険出版社
	事例を通してやさしく学ぶ中範囲理論入門	佐藤 英子 他	日総研出版
参考図書・資料等	看護のための人間発達学 第5版	舟島なをみ 他	医学書院
	生涯人間発達論 人間への深い理解と愛情を育むために	服部 祥子	医学書院
評価方法	筆記試験、講義およびグループワーク参加態度、授業出席状況		

科目名	成人看護援助論Ⅰ	時期		時間	単位
担当教員	専任教員・非常勤講師 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	2年次	前期	30時間	1単位
学習目標	1 急性期にある対象と、その家族の特徴および看護を理解する 2 周手術期にある対象の特徴と周手術期看護の援助方法を理解する 3 消化・吸収機能障害のある患者の看護を理解する 4 循環機能障害のある患者の看護を理解する				

授 業 計 画				
回 数	項 目	内 容	方法	
1～3	周手術期にある患者の特徴と看護 (術前・術中・術後)	1 術前からの看護 (1) 術前オリエンテーション (2) 術後合併症のリスクと予防 2 術中の看護 (1) 麻酔による影響と援助 (2) 手術体位による影響と援助 (3) 安全管理 3 術後の看護 (1) 手術侵襲と生体反応 (2) 術後の疼痛管理 (3) 気管内吸引 (4) 創傷、ドレーン管理 ア 創処置の実際 イ 無菌操作 (5) 術後合併症と予防 (6) ボディイメージの変容	講義・演習 (専任教員) 【演習】 <レベルⅢ> 76. 創傷処置のための無菌操作 (レベルⅣ) 66. 気管内吸引の観察点 68. 人工呼吸器装着中の患者の観察点 77. 消毒薬の特徴がわかる	
4～10	消化・吸収機能障害のある患者の看護	1 上部消化管腫瘍(食道がん・胃がん) 2 下部消化管腫瘍(直腸がん) 3 炎症性疾患(大腸炎・クローン病) 4 手術療法をうける患者の看護 (1) 腹腔鏡手術を受ける患者の看護 (2) 胃の手術を受ける患者の看護 (3) 腸の手術を受ける患者の看護 5 ストーマケア	講義・演習 (非常勤講師) <レベルⅣ> 26. ストーマを増設した患者の一般的な生活上の留意点がわかる	
11～14	循環機能障害のある患者の看護	1 虚血性心疾患患者の看護 2 心不全患者の看護 3 不整脈患者の看護 4 弁膜症患者の看護 5 閉塞性動脈硬化症患者の看護 6 冠状動脈インターベンション・ペースメーカー治療を受ける患者の看護 7 心臓リハビリテーションと看護	講義・演習 (非常勤講師) <レベルⅣ> 70. 循環機能のアセスメントの視点がわかる	
15	試験 (90分)			

テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3]循環器	吉田 俊子 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5]消化器	松田 明子 他	医学書院
	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論	矢永 勝彦 他	医学書院
	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論	北島 政樹 他	医学書院
	根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術	任 和子 他	医学書院
参考図書・資料等	高齢者と成人の周手術期看護 1、2、3 第2版	竹内 登美子	医歯薬出版
評価方法	筆記試験・レポート		

科目名	成人看護援助論Ⅱ	時期		時間	単位
担当教員	非常勤講師	2年次	前期	30 時間	1 単位
学習目標	1 慢性期にある対象とその家族の特徴および看護を理解する 2 慢性期にある対象がセルフマネジメントを継続するための看護を理解する 3 内分泌機能、腎・排尿機能、呼吸機能の障害のある患者への看護を理解する				

授 業 計 画				
回 数	項 目	内 容	方法	
1～5	内分泌機能障害のある患者の看護	1 内分泌機能障害の原因 2 内分泌機能による症状と観察 3 治療を受ける患者の看護 (1) 糖尿病患者の看護 (1・2型糖尿病) (2) 甲状腺疾患患者の看護 (甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、甲状腺がん) (3) 副腎疾患患者の看護 (4) 下垂体疾患患者の看護 (下垂体腫瘍)	講義 <レベルⅡ> 117 血糖測定 <レベルⅣ> 98. 99. インシュリン製剤の種類と投与されている患者の観察	
6～9	腎・排尿機能障害のある患者の看護	1 腎・排尿機能障害の原因 2 腎・排尿機能障害による症状と観察 3 治療を受ける患者の看護 (1) 急性・慢性腎不全患者の看護 (2) 腎炎・慢性腎臓病患者の看護 (3) 前立腺肥大のある患者の看護 (4) 腫瘍 (腎がん、膀胱がん、前立腺がん) のある患者の看護 (5) 腎・尿路結石のある患者の看護 4 腎移植を受ける患者の看護 5 透析療法を受ける患者の看護 (1) 血液透析 (2) 腹膜透析	講義	
10～14	呼吸機能障害のある患者の看護	1 呼吸機能障害の原因 2 呼吸機能障害による症状と観察 3 治療を受ける患者の看護 (1) 腫瘍 (肺がん、中皮腫) (2) 炎症性疾患 (肺炎、気管支炎、胸膜炎) (3) 慢性閉塞性肺疾患 (COPD)	講義 <レベルⅣ> 69. 低圧胸内持続吸引中の観察	
15	試験 (90 分)			

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1] 成人看護学総論	小松 浩子 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6] 内分泌・代謝	黒江 ゆり子 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8]腎・泌尿器	大東 貴志 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2]呼吸器	浅野 浩一郎 他	医学書院
	根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術	任 和子 他	医学書院
参考図書・資料等			
評価方法	筆記試験、グループワーク・レポートを総合的に評価する		

科目名	成人看護援助論Ⅲ	時期		時間	単位
担当教員	非常勤講師	2年次	前期	30 時間	1 単位
学習目標	1 終末期にある対象とその家族の特徴および看護を理解する 2 血液悪性疾患、肝臓・胆嚢疾患、膵臓疾患、HIV/AIDS、感覚機能障害のある患者の看護を理解する				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1～4	血液悪性疾患患者の看護	1 白血病患者の看護 2 悪性リンパ腫患者の看護 3 がん薬物療法と看護 4 放射線療法と看護 5 造血幹細胞移植を受ける患者の看護 6 輸血療法を受ける患者の看護	講義
5～8	肝臓・胆嚢疾患患者の看護	1 肝炎患者の看護 2 肝硬変症患者の看護 3 肝がん患者の看護 4 胆石症患者の看護	講義
9	膵臓疾患患者の看護	1 急性膵炎患者の看護 2 慢性膵炎患者の看護 3 膵臓がん患者の看護	講義
10	HIV/AIDS 患者の看護	1 HIV/AIDS 患者の病期に応じた看護 (1) 急性感染期 (2) 無症候期 (3) エイズ発症期	講義
11	感覚機能障害のある患者の看護 (眼)	1 中途視覚障害者の看護 2 白内障患者の看護	講義
12	感覚機能障害のある患者の看護 (耳鼻)	1 突発性難聴、メニエール病患者の看護 2 副鼻腔炎患者の看護	講義
13～14	人生の最期のときを支える看護	1 延命治療から患者の自己決定を重視した医療へ 2 人生の最期のときにおける緩和ケア 3 人生の最期のときを過ごしている人への理解 4 人生の最期のときを支える看護	講義
15	試験(90 分)		

テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[4] 血液・造血器	飯野 京子 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5] 消化器	松田 明子 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[11] アレルギー 膠原病 感染症	岩田 健太郎 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[13] 眼	大鹿 哲郎 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[14] 耳鼻咽喉	小松 浩子 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1] 成人看護学総論	小松 浩子 他	医学書院
参考図書・資料等	新体系 看護学全書 成人看護学⑨ 感染症 アレルギー・免疫 膠原病	竹田 美文 他	メヂカルフレンド社
評価方法	筆記試験、グループワーク、レポート、出席状況などを総合的に評価		

科目名	成人看護援助論Ⅳ	時期		時間	単位
担当教員	専任教員・非常勤講師 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	2年次	前期 後期	30 時間	1 単位
学習目標	1 がん患者と家族への看護を理解する 2 終末期および緩和ケアを必要とする対象とその家族の特徴および看護を理解する				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1～4	がん患者の看護①	1 がん患者の苦痛に対するマネジメント 2 がん患者の心理的サポート 3 がん治療に対する看護 4 がん治療の場と看護 5 治療をうける患者の看護 (1) 脳腫瘍 (2) 舌がん (3) 咽頭がん (4) 喉頭がん	講義 (非常勤講師)
5～6	がん患者の看護②	1 乳がんの治療を受ける患者の看護 (1) 乳房の手術を受ける患者の看護 (2) 化学療法を受ける患者の看護 (3) 放射線療法を受ける患者の看護 (4) ホルモン療法を受ける患者の看護	講義 (非常勤講師) 139. 薬剤の暴露の危険性および防止策
7～10	緩和ケアを必要とする患者と家族への看護	1 緩和ケアにおける看護介入 2 身体的ケア (1) オピオイドを使用する患者の看護 他 3 精神的ケア 4 社会的ケア 5 スピリチュアルケア 6 家族ケア	講義 (非常勤講師) 100. 麻薬を投与されている患者の観察点
11～14	事例展開	1 看護過程の考え方 2 事例展開の実際 (1) アセスメント (2) 看護上の問題点の明確化 (3) プランニング	講義 (専任教員) 〈レベルⅡ〉 114. 系統的な観察 115 患者のアセスメント
15	試験 (90 分)		

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1] 成人看護学総論	小松 浩子 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7] 脳・神経	飯野 京子 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9] 女性生殖器	末岡 浩 他	医学書院
	系統看護学講座 別巻 がん看護学	小松 浩子 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[14] 耳鼻咽喉	小松 浩子 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[15] 歯・口腔	渋谷 絹子 他	医学書院
	系統看護学講座 別巻 緩和ケア	恒藤 暁 他	医学書院
	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術	北島 政樹 任 和子 他	医学書院
	参考図書・資料等		
評 価	筆記試験、グループワーク、レポート、出席状況などを総合的に評価する		

科目名	成人看護学実習	6単位	270時間
-----	---------	-----	-------

I 成人看護学実習 I (2単位 90時間)

実習目的	成人期にあり慢性疾患をもつ対象とその家族を理解し、生活の再構築や生涯にわたるセルフケア・セルフケアマネジメントを支援するための基礎的能力を修得する
実習目標	1 成人期にある対象とその家族の特徴を理解する 2 慢性疾患をもつ対象の健康問題をアセスメントする 3 慢性疾患をもつ対象の看護問題を明確化する 4 慢性疾患をもつ対象の看護問題を解決するための看護計画を立案し、実施する 5 セルフケアやセルフケアマネジメントを必要とする対象とその家族への看護について考察する

II 成人看護学実習 II (2単位 90時間)

実習目的	成人期にある対象とその家族を理解し、急激な疾病の発症や急性増悪、健康の回復への看護を実践するための基礎的能力を修得する
実習目標	1 急激な疾病の発症や急性増悪、健康の回復過程にある対象とその家族の特徴を理解する 2 急激な疾病の発症や急性増悪、健康の回復状態にある対象の健康問題をアセスメントする 3 急激な疾病の発症や急性増悪、健康の回復状態にある対象の看護問題を明確化する 4 急激な疾病の発症や急性増悪、健康の回復状態にある対象の看護問題を解決するための看護計画を立案し、実施する 5 救急医療を必要とする対象の特徴と看護の役割を理解する 6 急激な疾病の発症や急性増悪、健康の回復状態にある対象とその家族への看護について考察する

III 成人看護学実習 III (2単位 90時間)

実習目的	成人期にあり治癒及び回復の困難な状態、または人生最期のときを過ごしている対象とその家族を理解し、対象に応じた看護を実践するための基礎的能力を修得する
実習目標	1 治癒及び回復の困難な状態、または人生最期のときを過ごしている対象とその家族の特徴を理解する 2 治癒及び回復の困難な状態、または人生最期のときを過ごしている対象の健康問題をアセスメントする 3 治癒及び回復の困難な状態、または人生最期のときを過ごしている対象の看護問題を明確化する 4 治癒及び回復の困難な状態、または人生最期のときを過ごしている対象の看護問題を解決するための看護計画を立案し、実施する 5 治癒及び回復の困難な状態、または人生最期のときを過ごしている対象とその家族への看護について考察する

科目名	母性看護学概論	時期		時間	単位
担当教員	専任教員 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	2年次	前期	30 時間	2 単位
学習目標	1 母性看護の基盤となる概念を理解する 2 母性看護の歴史的変遷や母子保健統計から母性看護の対象を理解する 3 母性看護の対象を取り巻く歴史的変遷やライフスタイルの変化等と組織・法律・施策との関連を学び、看護職の役割を理解する 4 母性看護実践のための主要な技術を理解する 5 女性のライフステージにおける看護とリプロダクティブヘルスに関する問題と看護を理解する				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1～2	母性看護の基盤となる概念	1 母性とは 2 母子関係と家族発達 3 セクシャリティ 4 リプロダクティブヘルス/ライツ 5 ヘルスプロモーション 6 母性看護のあり方 7 母性看護における倫理 8 母性看護における安全・事故防止	講義
3～4	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	1 母性看護の歴史的変遷と現状 (1) 母性看護の変遷 (2) 母子保健統計の動向 (3) 母性看護に関する組織と法律 (4) 母子保健に関連する施策 2 母性看護の対象を取り巻く環境	講義
5	母性看護の対象理解	1 女性のライフスタイルにおける形態・機能の変化と家族 2 母性の発達・成熟・継承	講義
6～7	母性看護に必要な技術	1 情報収集・アセスメント技術 2 母性看護に使われる看護技術	講義・演習
8～10	女性のライフステージ各期における看護	1 ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性	講義
11～14	リプロダクティブヘルスケア	1 家族計画・性感染症とその予防・HIVに感染した女性に対する看護・人工妊娠中絶と看護 2 喫煙女性の健康と看護 3 性暴力を受けた女性に対する看護 4 児童虐待と看護 5 国際化社会と看護	講義
15	試験 (90 分)		

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [1] 母性看護学概論	森 恵美 他	医学書院
	国民衛生の動向		厚生労働協会
参考図書・資料等			
評価方法	筆記試験・平常点（レポート・出席状況など）を総合的に評価する		

科目名	母性看護援助論Ⅰ	時期		時間	単位
担当教員	専任教員・非常勤講師 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	2年次	後期	30時間	1単位
学習目標	1 妊娠期・分娩期における母と胎児の健康維持・増進およびその家族に必要な看護を理解する 2 女性特有の健康障害の特徴と治療に応じた看護を理解する				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1～3	妊娠期における看護	1 妊娠期における看護師の役割 2 妊娠期の身体的特性 (1) 妊娠とは (2) 妊娠の成立、胎盤の形成と胎児の発育 (3) 母体生理的变化 3 妊娠期の心理・社会的特性 (1) 妊婦の心理、妊婦と家族および社会 4 妊婦と胎児のアセスメント (1) 問診、外診、内診、臨床検査、日常生活に関するアセスメント 5 妊婦と家族の看護 (1) 母子保健サービス、保健相談、親になるための準備	講義・演習 (非常勤講師)
4～5	妊娠の異常と看護 遺伝相談・不妊治療における看護	1 ハイリスク妊婦の看護 1 遺伝相談とは 2 出生前診断を受ける人への看護・遺伝カウンセリング 3 不妊治療における心理・社会的特徴 4 不妊夫婦の看護	講義 (非常勤講師)
6～10	分娩期における看護	1 分娩期における看護師の役割 2 分娩の要素・分娩の経過 3 産婦と家族の看護 4 分娩期の看護の実際	講義・演習 (非常勤講師)
11	分娩の異常と看護	1 異常のある産婦の看護 2 異常分娩時の産婦の看護 3 分娩時異常出血のある産婦の看護	講義 (非常勤講師)
12～14	女性生殖器疾患患者の看護	1 外来・病棟における看護 2 診療介助における看護 3 症状とその病態に対する看護 4 疾患をもつ患者の看護 (1) 子宮筋腫 (2) 子宮内膜症 (3) 卵巣嚢腫 (4) 子宮体がん・子宮頸がん (5) 卵巣がん (6) 月経異常・更年期障害	講義 (専任教員)
15	試験 (90分)		

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論	森 恵美 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [9] 女性生殖器	末岡 浩 他	医学書院
参考図書・資料等	写真でわかる母性看護技術アドバンス		インターメディカ
評価方法	筆記試験・平常点（レポート・出席状況など）を総合的に評価する		

科目名	母性看護援助論Ⅱ	時期		時間	単位
担当教員	専任教員・非常勤講師 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	2年次	後期	30 時間	1 単位
学習目標	1 産褥期および新生児期における母と児への看護方法を学ぶ 2 母性看護における看護過程のプロセスを理解する				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1～4	産褥期における看護	1 産褥の経過 2 産褥のアセスメント 3 褥婦と家族の看護 4 施設退院後の看護	講義・演習 (非常勤講師)
5	異常のある褥婦の看護	1 感染症をもっている褥婦の看護 2 乳房トラブル 3 健康上の問題のある褥婦および新生児の看護	講義 (非常勤講師)
6～8	新生児期における看護	1 新生児の生理 2 新生児のアセスメント 3 新生児の看護	講義・演習 (非常勤講師) 【演習】 (レベルⅡ) 55 沐浴
9	新生児の異常と看護	1 分娩外傷における看護 2 新生児仮死児の看護 3 高ビリルビン血症児の看護	講義 (非常勤講師)
10～14	看護過程	1 ウェルネスの考えに基づく母性における看護過程 2 事例演習 (1) 褥婦・新生児の看護	講義・演習 (専任教員)
15	試験 (90 分)		

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔1〕 母性看護学概論	森 恵美 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔2〕 母性看護学各論	森 恵美 他	医学書院
	ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第3版	太田 操	医歯薬出版株式会社
	写真でわかる母性看護技術アドバンス	平澤 美恵子 他	インターメディカ
参考図書・資料等	ウェルネスからみた母性看護過程	佐世 正勝 他	医学書院
評価方法	筆記試験・平常点（レポート・出席状況など）を総合的に評価する		

科目名	母性看護学実習	2単位	90時間
-----	---------	-----	------

実習目的	妊婦・産婦・褥婦及び新生児とその家族を理解し、対象に応じた看護実践に必要な基礎的能力を修得する
実習目標	1 妊婦の身体的、心理・社会的特徴と健康状態に応じた援助を理解する 2 産婦及びその家族への必要な看護を理解する 3 新生児の生理的特徴と必要な看護を理解する 4 褥婦及び新生児とその家族を理解し、健康状態の維持・増進への援助を実施する 5 妊産褥婦及び乳幼児に対する母子保健サービスを理解する 6 地域の子育て家庭に対する育児支援を理解する

科目名	精神看護学概論	時期		時間	単位
担当教員	専任教員 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	2年次	前期	30時間	2単位
学習目標	1 精神看護の対象と看護の場について理解し、精神看護の役割と機能を理解する 2 精神保健福祉に関わる法制度の変遷について理解する 3 精神保健の課題について理解する				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1	精神保健・看護の概念	1 精神看護とは 2 精神保健とは 3 精神看護の目的・機能・役割	講義
2～3	精神保健	1 精神の健康とは 2 精神障害のとらえ方 3 回復（リカバリ） 4 ストレングスとレジリエンス 5 一次予防・二次予防・三次予防	講義
4～5	心のしくみとはたらき	1 精神とは 2 心の構造について 3 防衛機制	講義
6～7	精神保健医療の沿革・歴史	1 精神障害と治療の歴史 2 日本における精神医学・精神医療の流れ	講義
8	リエゾン精神看護	1 リエゾン精神看護とその活動 2 リエゾンナースの実際	講義
9	生活の場とクライシス	1 クライシスとは 2 家庭・学校・職場・地域における危機	講義
10～11	精神障害と法制度	1 精神保健福祉法と医療 （1）入院形態 （2）精神保健指定医 2 精神障害者の権利擁護 3 障害者総合支援法と人権 4 自殺対策基本法と人権・看護	講義
12～13	地域における精神保健と精神看護	1 生活を支えるための社会資源・サービス	講義
14	看護における感情労働	1 感情労働としての看護 2 看護師の感情ワーク	講義
15	試験（45分）	講義総括	

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学1	武井 麻子 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学2	武井 麻子 他	医学書院
	精神看護学 精神保健 第4版	太田 保之 他	医歯薬出版
	国民衛生の動向		厚生統計協会
参考図書・資料等	DVD「A Beautiful Mind」		
評価方法	筆記試験・課題レポート		

科目名	精神看護援助論Ⅰ	時期		時間	単位
担当教員	非常勤講師	2年次	後期	30 時間	1 単位
学習目標	1 精神の健康障害や精神症状について、看護の基本となる考え方、技術を理解する 2 精神に障害のある人の特徴と看護援助を理解する				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1～3	主要疾患別看護	1 統合失調症のある患者の看護 2 気分（感情）障害のある患者の看護 3 アルコール依存症のある患者の看護 4 家族への看護	講義
4～6	主要症状別看護	1 幻覚・妄想のある患者の看護 2 抑うつ、引きこもりのある患者の看護 3 拒絶、興奮状態にある患者の看護 4 自己破壊行動のある患者の看護 5 操作、依存状態にある患者の看護	講義
7～8	精神科の治療と身体のケア	1 薬物療法とその副作用 2 電気けいれん療法（ECT）	講義
9～10	回復を支えるさまざまなプログラム	1 作業療法、レクリエーション療法 2 社会生活技能訓練（SST） 3 認知行動療法（CBT）	講義・演習
11～12	地域における精神看護	1 退院支援 2 神科デイケア 3 精神科訪問看護、ACT（包括型地域生活支援プログラム） 4 セルフヘルプグループ 5 就労移行支援・就労継続支援 A 型・B 型 6 グループホーム、援護寮、家族会など	講義
13～14	精神科における安全管理と患者の権利擁護	1 行動制限と看護 2 暴力・無断離院 3 アドボカシー	講義・演習
15	試験（90 分）	試験	

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1] 精神看護の基礎	武井 麻子 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2] 精神看護の展開	武井 麻子 他	医学書院
参考資料・資料等	DVD 目で見える精神看護第2版 Vol.1 精神科医療と福祉の現状、Vol.3 病院から地域社会へ 目で見える訪問看護 Vol.6 精神疾患をもつ療養者の看護		
評価方法	筆記試験		

科目名	精神看護援助論Ⅱ	時期		時間	単位
担当教員	専任教員 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	2年次	後期	30 時間	1 単位
学習目標	1 精神の健康障害や精神症状について、看護の基本となる考え方、技術を理解する 2 精神に障害のある人の問題を解決するための方法を理解する				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1～3	精神看護師の役割	1 精神看護の特徴と役割 2 患者-看護師関係 3 人間関係（自己洞察） （1）プロセスレコード	講義・演習
4～7	精神を病む人への看護援助の基本	1 日常生活援助 2 看護が活用する技法 （1）コミュニケーション （2）ロールプレイング （3）生活技能訓練（SST）	講義・演習
8～14	精神に障害のある対象の事例展開（事例）	【事例】 1 統合失調症の患者の看護 2 うつ状態にある患者の看護 3 事例に対し、臨地実習で使用する記録用紙を用いて看護過程を展開する （1）情報、分析・解釈 （2）アセスメント （3）統合アセスメント （4）看護計画 4 発表	演習
15	試験（45分）	講義総括	

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1] 精神看護の基礎	武井 麻子 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2] 精神看護の展開	武井 麻子 他	医学書院
参考図書・資料等			
評価方法	筆記試験・レポート		

科目名	精神看護学実習	2単位	90時間
-----	---------	-----	------

実習目的	精神に障害のある対象とその家族を理解し、健康上の課題が対象の生活行動に及ぼしていることを総合的に把握し看護する能力を修得する
実習目標	1 精神に障害のある対象およびその家族を理解する 2 精神に障害のある対象およびその家族のもつ問題を把握し、看護を展開する 3 対象との関わりを通して自己を振り返り、関係を発展させる技術を理解する 4 デイケアを利用している対象と、その対象への援助を理解する 5 精神科訪問看護を利用している対象と、その対象への援助を理解する 6 地域における支援事業を知り、地域で生活している対象を理解する 7 保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割を理解する 8 対象の権利擁護について自らの考えが述べられる

科目名	老年看護学概論	時期		時間	単位
担当教員	専任教員 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	2年次	前期	30時間	2単位
学習目標	1 老年期における看護の機能と役割を理解する 2 老年期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解する 3 高齢社会における保健・医療・福祉の動向を理解する 4 高齢者における権利擁護とエンドオブライフケアの重要性を理解する				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1～2	老年看護の特徴	1 「老い」ということ 2 老年期の発達課題 3 老年看護のなりたち 4 老年看護の役割と老年看護に携わる者の責務	講義
3～9	高齢者の身体的・精神的・社会的特徴	1 加齢に伴う身体的側面の変化 (1) 皮膚とその付属器、視聴覚とその他の感覚 (2) 循環系、呼吸器系、消化器系 (3) ホルモンの分泌 (4) 泌尿・生殖器、運動系 2 加齢に伴う心理的側面の変化 3 加齢に伴う社会的側面の変化 (1) 高齢者と家族、高齢者の暮らし	講義・演習 【演習】 高齢者擬似体験
10～12	高齢社会における保健・医療・福祉の動向	1 超高齢社会と社会保障 (1) 超高齢社会の統計的輪郭 (2) 高齢者の健康状態、死因、死亡の動向 2 高齢社会における保健医療福祉の動向 (1) 高齢者にかかわる保健医療福祉システムの構築 (2) 高齢者を支える多職種連携と看護活動の多様化	講義
13	高齢者の人権と倫理	1 高齢者の権利擁護 (1) 高齢者差別、虐待 (2) 高齢者の身体拘束 (3) 権利擁護のための制度	講義
14	エンドオブライフケア	1 エンドオブライフケアの概念 2 「生きる」ことを支えるケア 3 意思決定への支援	講義
15	試験 (90分)		

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学	北川 公子 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論	鳥羽 研二 他	医学書院
	国民衛生の動向		厚生統計協会
参考図書・資料等	DVD 目で見える老年看護学 高齢者の生理機能Ⅰ	感覚・運動・神経系	
	DVD 目で見える老年看護学 高齢者の生理機能Ⅱ	消化・腎・排泄系	
	DVD 目で見える老年看護学 高齢者の生理機能Ⅲ	循環・呼吸系	
評価方法	筆記試験、課題レポート		

科目名	老年看護援助論Ⅰ	時期		時間	単位
担当教員	専任教員・非常勤講師 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	2年次	前期	30時間	1単位
学習目標	1 脳血管障害、認知機能障害、運動器障害をもつ高齢者への看護を理解する 2 褥瘡を予防するための援助方法を理解する				

授 業 計 画			
回数	項 目	内 容	方法
1～4	脳神経機能障害をもつ高齢者の看護	1 脳血管障害の病態、症状、検査、診断、治療 (1) 脳血管障害(大脳、小脳) (2) 頭部外傷 (3) パーキンソン症候群 (4) その他高齢者に多い脳血管障害 2 生じやすい看護問題と看護 (1) 急性期、回復期、維持期の看護 (2) 生じやすい看護問題と看護 ア 歩行や転倒予防に対する援助 イ 日常生活に関する援助 ウ 薬物療法時の援助 エ 家族への支援	講義・演習 (非常勤講師)
5～7	認知機能障害をもつ高齢者の看護	1 認知機能障害の病態、症状、検査、診断、治療 (1) うつ (2) せん妄 (3) 認知症 2 認知機能および生活機能の評価 3 認知症の予防と看護	講義 (専任教員)
8～11	運動機能障害をもつ高齢者の看護	1 運動機能障害の病態、症状、検査、診断、治療 (1) 大腿骨頸部骨折 (2) 骨粗鬆症 (3) 関節リウマチ (4) 椎間板ヘルニア (5) その他高齢者に多い運動機能障害 2 大腿骨頸部骨折患者の看護 (1) 処置・治療に伴う経過と看護 (2) 生じやすい看護問題と看護 (3) 関節可動域訓練 (4) 牽引療法、ギプス固定	講義・演習 【演習】 〈レベルⅡ〉 34 自動・他動運動 39 関節可動域訓練 (非常勤講師)
12～14	褥瘡予防の援助	1 褥瘡の病態、症状、検査、診断、治療 2 褥瘡をもつ患者の看護 (1) 発生要因のアセスメント (2) 褥瘡リスクの評価ツール (3) 外力に対する看護 (4) 組織耐久性の低下へのケア (5) 褥瘡の評価 3 褥瘡予防の援助技術	講義・演習 【演習】 〈レベルⅡ〉 71. 72. 73 褥瘡ケア (非常勤講師)
15	試験 (90分)		

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学	北川 公子 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論	鳥羽 研二 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学7 脳・神経	井手 隆文 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学10 運動器	加藤 光寶 他	医学書院
	根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術	任 和子 他	医学書院
参考図書・資料等	DVD 目で見える老年看護学 第2版 看護技術Ⅳ 認知症高齢者の看護		
課題レポート			
評価方法	筆記試験、課題レポート		

科目名	老年看護援助論Ⅱ	時期		時間	単位
担当教員	専任教員 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	2年次	後期	30時間	1単位
学習目標	1 老年看護に関する理論・概念を理解する 2 治療を必要とする高齢者の看護を理解する 3 高齢者の生活機能を整えるために必要な援助技術を習得する 4 老年期にある対象の問題を解決するための方法を考え記述できる				

授 業 計 画			
回数	項 目	内 容	方法
1	老年看護で用いられる理論・概念	1 老年看護における理論の活用 2 老年看護に役立つ理論・概念 (1) サクセスフルエイジング (2) ストレングスモデル	講義
2～3	治療を必要とする高齢者の看護	1 検査、薬物療法を受ける高齢者の看護 2 手術を受ける高齢者の看護 3 リハビリテーションを受ける高齢者の看護 4 入院治療を受ける高齢者の看護	講義・演習
4～9	高齢者の生活機能を整える看護	1 日常生活を支える基本的活動 (1) 生活の基本となる日常生活動作 (2) 日常生活活動（動作）の評価 2 転倒・転落、廃用症候群の予防と援助 3 食事・食生活の援助 (1) 誤嚥予防の援助 (2) 脱水予防の看護 4 排泄（排尿・排便）の援助 (1) 排泄ケアの基本 (2) 排泄障害 5 清潔・整容の援助 (1) 皮膚障害 (2) かゆみ予防の援助 6 生活リズムを整える援助 (1) 睡眠と覚醒の変化 (2) 生活リズム 7 高齢者におけるセクシュアリティ 8 高齢者の社会参加を促す援助 9 高齢者の状態・状況に応じたコミュニケーション (1) 難聴 (2) 視力障害	講義・演習 【演習】 〈レベルⅠ〉 29 廃用症候群のリスク 〈レベルⅡ〉 20 失禁のケア 40 廃用症候群予防のための呼吸機能 能を高める援助 53 口腔ケア 〈レベルⅣ〉 24 皮膚粘膜の保護 30 睡眠を意識 した活動の援助
10～14	事例展開	1 看護過程の考え方 2 事例展開の実際 (1) アセスメント (2) 看護上の問題点の明確化 (3) プランニング (4) 老年看護学実習で起こりやすいヒヤリ・ハットとその要因	講義・演習
15	試験（90分）		

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学	北川 公子 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論	鳥羽 研二 他	医学書院
	根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術	任 和子 他	医学書院
参考図書・資料等			
評価方法	筆記試験		

科目名	老年看護学実習	4単位	180時間
-----	---------	-----	-------

I 老年看護学実習 I (2単位 90時間)

実習目的	入院治療を必要とする老年期にある対象とその家族を理解し、老年看護の基礎となる知識・技術・態度を修得する。また、対象の生活する住環境の実際について理解する
実習目標	1 老年期にある対象とその家族の特徴を理解する 2 老年期にある対象の健康課題を改善するために、その人らしい生活を送れる看護を展開する 3 老年期にある対象を尊重し、円滑なコミュニケーションが図れる 4 地域で生活する老年期にある対象の住環境について理解する 5 老年期にある対象との関わりを通して老年看護について考察する

II 老年看護学実習 II (2単位 90時間)

実習目的	地域や病院で生活する高齢者とその家族の健康および健康課題ならびに施設で生活する認知症のある高齢者について理解し、病院や施設、地域の連携を含めた継続的な支援体制を考慮しながら、ニーズに応じた援助ができる基礎的能力を修得する
実習目標	1 対象とその家族を対象者として人間関係を築き、生活と健康および健康課題について理解する 2 健康課題を抱え病院に入院している老年期にある対象者を理解し在宅復帰に向けた看護を展開する 3 地域で自立して生活をしている高齢者について考察する 4 グループホームで生活する高齢者の健康課題を把握し、援助について考察する 5 病院、施設、地域における関係職種・機関との連携・調整について学び、看護職の役割について考察する

科目名	解剖生理学 I	時期		時間	単位
担当教員	非常勤講師	1 年次	前期	30 時間	1 単位
学習目標	人体の発生と構成する単位（骨格系、筋系、消化器系、内分泌系）を学び、人体の構造を理解する				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1～5	7 章 からだの支持と運動	1 からだの骨格と筋 2 骨組織と筋組織	講義
6～10	2 章 栄養の消化と吸収	1 消化器系の構造と機能	講義
11～14	6 章 内蔵機能の調節	1 内分泌系の構造と機能 2 ホルモン	講義
15	試験(90 分)	まとめ	講義

使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学	坂井建雄他	医学書院
参考図書・資料等			
評価方法	筆記試験等から総合的に判断する		

科目名	解剖生理学Ⅱ	時期		時間	単位
担当教員	非常勤講師	1 年次	前期	30 時間	1 単位
学習目標	人体の発生と構成する単位（呼吸系、血液、心臓血管系、リンパ系、泌尿器系、生殖器系）を学び、人体の構造を理解する				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1～4	3 章 呼吸と血液のはたらき	1 呼吸器系の構造と機能	講義
5～8	4 章 血液の循環とその調節	1 循環器系の構造と機能	講義
9～11	5 章 体液の調節と尿の生成	1 泌尿器系の構造と機能	講義
12～14	10 章 生殖・発生と老化のしくみ	1 生殖器系の構造と機能	講義
15	試験(90 分)	まとめ	

使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学	坂井建雄他	医学書院
参考図書・資料等			
評価方法	筆記試験等から総合的に判断する		

科目名	解剖生理学Ⅲ	時期		時間	単位
担当教員	非常勤講師	1 年次	後期	30 時間	1 単位
学習目標	人体の発生と構成する単位（神経系、特殊感覚、皮膚）を学び、人体の構造を理解する				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1～9	8 章 情報の受容と処理	1 脳と脊髄、末梢神経系 2 自律神経系 3 神経組織 4 特殊感覚器の構造と機能	講義
10～12	9 章 外部環境からの防御	1 生体防御機構	講義
13	試験(90 分)	まとめ	
14～15	系統解剖学実習	1 解剖体、諸臓器の観察	演習

使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学	坂井建雄他	医学書院
参考図書・資料等			
評価方法	筆記試験等から総合的に判断する		

科目名	生物と生命論	時期		時間	単位
担当教員	非常勤講師	1 年次	前期	30 時間	1 単位
学習目標	1 生物の構造と機能の単位が「細胞」であることを理解する 2 人のいのちの活動は「全生物共通の原理」に基づいて進行していることを理解する 3 人の活動は、生態系の中に位置づけられていることを理解する				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1	序論	1 生き物とは？	講義
2	生体を構成する物質	1 水、糖、脂質、タンパク質、核酸	講義
3	細胞の構造	1 原核細胞と真核細胞	講義
4	細胞分裂と有性生殖	1 体細胞分裂と減数分裂	講義
5	遺伝の様式と DNA	1 メンデルの法則と遺伝物質	講義
6	遺伝子の働きと突然変異	1 遺伝情報の転写・翻訳、突然変異	講義
7	ホルモンと環境ホルモン	1 内分泌系	演習
8	魚の解剖	1 各器官とその機能	講義
9	消化器系 1	1 胃と腸と機能その進化	講義
10	消化器系 2	1 肝臓と胆嚢の機能と進化	講義
11	循環器系	1 心臓と血管の機能と進化	講義
12	骨と筋肉	1 骨と筋肉の機能と進化	講義
13	免疫	1 病原体に対する防御機構	講義
14	生態系	1 生産者、消費者、分解者	講義
15	試験 (90 分)	まとめ	

使用テキスト	系統看護学講座 基礎分野 生物学	高畑 雅一 他	医学書院
	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学	坂井建雄他	医学書院
参考図書・資料等			
評価方法	筆記試験、レポート		

科目名	栄養学	時期		時間	単位
担当教員	非常勤講師	1 年次	前期・後期	30 時間	1 単位
学習目標	1 人間にとって栄養の意義を理解する 2 健康の保持増進に必要な栄養素について理解する 3 臨床栄養について理解する				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1～2	【栄養学】 人間栄養学	1 栄養を学ぶということ 2 栄養素の種類とはたらき (1) 糖質 (2) 脂質 (3) タンパク質 (4) ビタミン (5) ミネラル	講義
3	食事と食品	1 人間の食事と食文化 2 日本人の食事摂取基準 3 食品と栄養素 4 食品群とその分類法	講義
4	栄養ケアマネジメント	1 チームアプローチと栄養・ケアマネジメント 2 栄養スクリーニング、栄養アセスメント 3 栄養ケア計画の実施、評価	講義
5	ライフステージと臨床栄養	1 ライフステージにおける栄養 2 チームで取り組む栄養管理 3 栄養補給法、病院食、経腸栄養製品、静脈栄養剤	講義
6	健康づくりと食生活	1 食生活の改善への施策 2 食の安全性と表示 3 医療保険制度・介護保険制度と食事	講義
7～8	【栄養食事療法】 栄養食事療法の実際①	1 栄養食事療法の原則 2 医療・福祉の場における栄養食事療法 3 症状を持つ患者の栄養食事療法の実際 (1) ショック (2) 発熱・低体温 (3) 脱水・浮腫 (4) やせ・過体重	講義
9～12	栄養食事療法の実際②	1 疾患別の栄養食事療法の実際 (1) 呼吸器疾患患者 (2) 循環器疾患患者 (3) 消化器疾患患者 (4) 腎・泌尿器疾患患者 (5) 血液疾患患者 2 褥瘡のある患者の栄養食事療法の実際 3 がん患者の栄養食事療法の実際	講義
13～14	食事療法の実際	1 献立作成・調理・試食	講義・演習
15	試験 (90 分)		

使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能〔3〕 栄養学	小野 章史 他	医学書院
	系統看護学講座 別巻 栄養食事療法	足立 香代子 他	医学書院
	新食品成分表 F o o d s		東京法令出版
参考図書・資料等			
評価方法	筆記試験		

科目名	生化学	時期		時間	単位
担当教員	非常勤講師	1 年次	後期	15 時間	1 単位
学習目標	1 糖質・脂質・タンパク質の代謝の概要とビタミンの役割を理解する 2 体液のホメオスタシスについての概要を理解する 3 酵素の学習を通して「核酸とタンパク質の合成」について理解する				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1	代謝とは	1 生命の単位としての「細胞」 2 生体を構成する物質	講義
2	酵素とビタミン	1 遺伝情報から作られる酵素 2 代謝における酵素の役割 3 酵素とビタミンの関係	講義
3～4	糖質代謝	1 糖質はエネルギー源 2 デンプンとグリコーゲンの消化 3 細胞内呼吸の概説と解糖系 4 クエン酸回路・電子伝達系（血糖調整）	講義
5	脂質代謝	1 脂質の消化とリポタンパク質 2 脂肪酸の分解とATP合成（脂肪酸の合成とケトン体）	講義
6	アミノ酸・ヌクレオチドの代謝	1 タンパク質・アミノ酸の分解 2 アミノ基転移反応と尿素回路（アミノ酸代謝異常） 3 ヌクレオチドの合成と分解	講義
7	体液	1 体液の組成と酸・塩基平衡 2 無機塩類の働き	講義
8	試験（45 分）		

使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔2〕生化学	三輪 一智、中 恵一	医学書院
参考図書・資料等			
評価方法	筆記試験		

科目名	病理学	時期		時間	単位
担当教員	非常勤講師	1 年次	前期・後期	30 時間	1 単位
学習目標	1 各臓器に共通してみられる細胞・組織の構造と機能を理解する（総論） 2 各器官に起こる疾病の原因と進行過程、診断・治療の特徴を理解する（各論）				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1～8	【病理学総論】 病理学で学ぶこと	1 病理学とは 2 看護と病理学 3 病気の原因（内因・外因）	講義
	臓器の違いを超えて共通する 病気の原因やなりたち	1 細胞・組織の障害と修復 2 循環障害 3 炎症と免疫、移植と再生医療 4 感染症 5 代謝障害 6 老化と死 7 先天障害と遺伝子異常 8 腫瘍	講義
9～14	【病理学各論】 それぞれの臓器に生じる疾患 の種類・分類、発生原因、進 行過程、診断・治療	1 循環器系の疾患 2 血液・造血器系の疾患 3 呼吸器系の疾患 4 消化器系の疾患 5 腎・泌尿器、生殖器系および乳腺の疾患 6 内分泌系の疾患 7 脳・神経・筋肉系の疾患 8 骨・関節系の疾患 9 眼・耳・皮膚の疾患 10 病理診断の実際	講義
15	試験（90 分）		

使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進① 病理学	大橋 健一 他	医学書院
	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進② 病態生理学	田中 越郎	医学書院
参考図書・資料等			
評価方法	筆記試験		

科目名	病態学 I	時期		時間	単位
担当教員	非常勤講師	1 年次	後期	30 時間	1 単位
学習目標	疾患により障害された呼吸器系、循環器系、血液・造血器系への影響と、疾患により発生する症状のメカニズム、検査・診断・治療について理解する				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1～2	呼吸器疾患の病態・診断・検査・治療①	1 気管支炎、肺炎、間質性肺炎、胸膜炎 2 気管支喘息 3 COPD 4 睡眠時無呼吸症	講義
3～5	呼吸器疾患の病態・診断・検査・治療②	1 肺循環障害（肺高血圧、肺塞栓症） 2 肺結核 3 気胸 4 腫瘍（肺がん、中皮腫）	講義
6～10	循環器疾患の病態・診断・検査・治療	1 心臓の疾患の病態と診断・治療 （1）先天性心疾患 （2）虚血性心疾患 （3）心筋症 （4）心タンポナーデ （5）不整脈 （6）炎症性疾患 （7）弁膜症 2 血管系の疾患の病態と診断・治療 （1）大動脈瘤、大動脈解離 （2）閉塞性動脈硬化症 （3）下肢静脈瘤・深部静脈血栓症 3 血圧異常の病態と診断・治療 （1）動脈硬化症 （2）本態性高血圧 （3）二次性高血圧 （4）起立性低血圧	講義
11～12	血液・造血器系疾患の病態・診断・検査・治療①	1 貧血 2 出血性疾患（TTP, ITP、DIC）	講義
13～14	血液・造血器系疾患の病態・診断・検査・治療②	1 白血球減少症 2 腫瘍（白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫）	講義
15	試験（90 分）		

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔2〕呼吸器	浅野 浩一郎 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔3〕循環器	吉田 俊子 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔4〕血液・造血器	飯野 京子 他	医学書院
参考図書・資料等			
評価方法	筆記試験		

科目名	病態学Ⅱ	時期		時間	単位
担当教員	非常勤講師	1 年次	後期	30 時間	1 単位
学習目標	疾患により障害された消化器系、脳・神経系、運動器系への影響と、疾患により発生する症状のメカニズム、検査・診断・治療について理解する				

授 業 計 画				
回 数	項 目	内 容		方法
1～2	上部消化管の疾患の病態と診断・治療	1 炎症性疾患 (1) 逆流性食道炎 (2) 急性・慢性胃炎 (3) ヘリコバクターピロリ感染症 2 潰瘍性疾患 (胃潰瘍、十二指腸潰瘍) 3 腫瘍 (食道がん、胃がん)		講義
3～4	下部消化管の疾患の病態と診断・治療	1 炎症性疾患 (1) 潰瘍性大腸炎 (2) クロウン病 (3) 虫垂炎 (4) 痔瘻 2 イレウス 3 腫瘍 (大腸ポリープ、結腸がん、直腸がん)		講義
5～6	肝臓・胆嚢・膵臓の疾患の病態と診断・治療	1 炎症性疾患 (1) 肝炎 (2) 胆管炎 (3) 膵炎 2 肝硬変 3 脂肪肝、アルコール性肝炎 4 胆石症 5 腫瘍 (肝がん、胆嚢がん、胆管がん、膵がん)		講義
7	腹壁・腹膜・横隔膜の疾患の病態と診断・治療	1 鼠径ヘルニア 2 腹膜炎 3 横隔膜ヘルニア		講義
8～9	神経系の疾患の病態と診断・治療	1 認知症 2 ギランバレー症候群 3 圧迫神経障害、顔面神経麻痺、自律神経失調症 4 筋ジストロフィー		講義
10～12	脳疾患の病態と診断・治療	1 脳血管障害 (1) 脳出血 (2) 脳梗塞 (3) くも膜下出血 2 頭蓋内圧亢進症 3 変性疾患 (1) パーキンソン病 (2) ALS 4 脱随疾患 (多発性硬化症) 5 感染症 (1) 脳炎 (2) 髄膜炎 6 頭部外傷、脊髄損傷 7 機能性疾患 (てんかん) 8 腫瘍 (脳腫瘍)		講義
13～14	骨・関節の疾患の病態と診断・治療	1 骨折、脱臼、捻挫 2 骨粗鬆症 3 腫瘍 (骨肉腫) 4 変形性関節症、腰痛症 5 炎症性疾患 (1) 骨・骨髄炎 (2) 関節炎 6 関節リウマチ		講義
15	試験 (90 分)			

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔5〕消化器	松田 明子 他	医学書院
	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論	北島 政樹 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔7〕脳・神経	井手 隆文 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔10〕運動器	織田 弘美 他	医学書院
参考図書・資料等			
評価方法	筆記試験		

科目名	病態学Ⅲ	時期		時間	単位
担当教員	非常勤講師	1 年次	後期	30 時間	1 単位
学習目標	疾患により障害された内分泌・代謝系、免疫系、腎・泌尿器系、女性生殖器系への影響と疾患により発生する症状のメカニズム、検査・診断・治療について理解する				

授 業 計 画				
回 数	項 目	内 容	方法	
1～3	内分泌系・代謝異常の疾患の病態と診断・治療	1 内分泌系（間脳・下垂体疾患、甲状腺疾患〔甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症〕、副甲状腺〔上皮小体〕疾患、副腎皮質・髄質疾患、腫瘍〔下垂体腫瘍、甲状腺がん〕 2 代謝異常（メタボリックシンドローム、肥満症、糖尿病、脂質異常、高尿酸血症、痛風、ビタミン欠乏症）	講義	
4～5	免疫機能疾患の病態と診断・治療	1 自己免疫疾患（SLE、関節リウマチ、シェーグレン症群など） 2 アレルギー性疾患（アナフィラキシーショックなど） 3 免疫低下（敗血症、HIV）	講義	
6～9	腎疾患の病態と診断・治療	1 水・電解質の異常（脱水、浮腫、低ナトリウム血症、高カリウム血症） 2 酸塩基平衡の異常（アシドーシス、アルカローシス） 3 腎炎、慢性腎臓病、腎盂腎炎 4 腎不全	講義	
10～11	泌尿器疾患の病態と診断・治療	1 膀胱炎、前立腺炎、前立腺肥大症 2 腫瘍（尿管がん、膀胱がん、前立腺がん、腎がん） 3 腎結石、尿路結石、排尿障害過活動膀胱（腹圧性尿失禁、夜尿症）	講義	
12	女性生殖器疾患の病態と診断・治療（乳腺）	1 乳腺の疾患（乳腺炎、乳腺症） 2 腫瘍（乳がん）	講義	
13～14	女性生殖器疾患の病態と診断・治療（子宮・卵巣疾患）	1 女性生殖器の疾患（子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣のう腫、月経異常、更年期障害、不妊症） 2 腫瘍（子宮体がん、子宮頸がん、卵巣がん）	講義	
15	試験（90 分）			

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔6〕 内分泌・代謝	黒江 ゆり子 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔11〕 アレルギー・膠原病・感染症	岩田 健太郎 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔8〕腎・泌尿器	大東 貴志 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔9〕女性生殖器	末岡 浩 他	医学書院
参考図書・資料等			
評価方法	筆記試験		

科目名	病態学Ⅳ	時期		時間	単位
担当教員	非常勤講師	2 年次	前期・後期	30 時間	1 単位
学習目標	1 小児の疾患における症状のメカニズム、検査、診断、治療について理解する 2 妊娠・分娩・産褥の生理と異常について理解する				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1～2	新生児疾患の症状、メカニズム、検査、診断、治療	1 低出生体重児 2 分娩損傷 3 新生児仮死 4 高ビリルビン血症 5 新生児感染症	講義
3	小児疾患の症状、メカニズム、検査、診断、治療①	1 呼吸器疾患（肺炎、マイコプラズマなど） 2 免疫疾患、アレルギー性疾患、リウマチ性疾患（アレルギー性疾患：気管支喘息、食物アレルギーなど）	講義
4	小児疾患の症状、メカニズム、検査、診断、治療②	1 血液・造血器疾患（貧血、突発性血小板減少性紫斑病など） 2 悪性新生物（白血病など）	講義
5～8	小児疾患の症状、メカニズム、検査、診断、治療③	1 循環器疾患（先天性心疾患、ファロー四徴症、川崎病など） 2 消化器疾患（乳児下痢症、腸重積など） 3 腎・泌尿器及び生殖器疾患（ネフローゼ症候群など） 4 神経疾患（けいれん性疾患：熱性けいれんなど） 5 代謝疾患（糖尿病など） 6 内分泌疾患（下垂体疾患：低身長症など） 7 小児の感染症（麻疹、百日咳など）	講義
9～14	妊娠・分娩・産褥の生理と異常	1 正常妊娠（胎児の発育と生理、妊婦の生理的変化など） 2 正常分娩（分娩の生理、分娩の三大要素など） 3 正常産褥（産褥の復古現象、乳汁分泌など） 4 ハイリスク妊娠・異常妊娠（妊婦と胎児の異常など） 5 異常分娩（産道、娩出力の異常、異常出血など） 6 異常産褥（子宮復古不全、産褥感染症など）	講義
15	試験（90 分）		

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論	奈良間 美保 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔2〕 母性看護学各論	森 恵美 他	医学書院
参考図書・資料等			
評 価	筆記試験		

科目名	病態学Ⅴ	時期		時間	単位
担当教員	非常勤講師	2 年次	前期・後期	30 時間	1 単位
学習目標	1 精神の健康障害や精神症状によって影響された患者の状態を理解する 2 精神の健康障害の検査、診断、治療について理解する 3 現代社会における自殺の現状と対策について理解する 4 疾患により障害された皮膚系、眼系、耳鼻咽喉系、歯・口腔系への影響と疾患により発生する症状のメカニズム、検査・診断・治療について理解する				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1～3	代表的な精神疾患/障害①	1 診断と疾病分類 2 代表的な疾患と障害 (1) 統合失調症 (2) 気分(感情)障害	講義
4～5	代表的な精神疾患/障害②	(3) 神経症性障害、ストレス関連性障害および身体表現性障害 (4) 生理的障害および身体要因に関連した行動症候群 (5) 器質性精神障害 (6) 精神作用物質による精神および行動の障害	講義
6～7	主な治療法	1 薬物療法 2 電気けいれん療法、修正型電気けいれん療法 3 精神療法	講義
8～9	小児・思春期・青年期の精神疾患/障害と治療	1 代表的な疾患/障害と治療 (1) 神経発達障害群(自閉症スペクトラム症、注意欠陥多動症) (2) パーソナリティ障害	講義
10	自殺と自殺対策	1 自殺の現状 2 自殺対策	講義
11	皮膚科疾患の病態・診断・治療・検査	1 悪性黒色腫、皮膚がん 2 湿疹(蕁麻疹、アトピー性皮膚炎、接触性皮膚炎) 3 帯状疱疹 4 蜂窩織炎	講義
12	眼疾患の病態・診断・治療・検査	1 白内障、緑内障 2 網膜剥離 3 網膜症	講義
13	耳鼻科疾患の病態と診断・治療	1 聴覚障害(難聴、メニエール病) 2 咽頭炎、扁桃炎、舌がん、咽頭がん 3 花粉症(アレルギー性鼻炎)	講義
14	歯・口腔・顎関節疾患の病態と診断・治療	1 歯周病 2 う歯	講義
15	試験(90分)		

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学〔1〕精神看護の基礎	武井麻子 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学〔2〕精神看護の展開	武井麻子 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔12〕皮膚	佐藤博子 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔13〕眼	大鹿哲郎 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔14〕耳鼻咽喉	小松浩子 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔15〕歯・口腔	渋谷絹子 他	医学書院
参考図書・資料等			
評価方法	筆記試験		

科目名	薬理学	時期		時間	単位
担当教員	非常勤講師	1 年次	前期	30 時間	1 単位
学習目標	1 薬物治療の目的を理解し、薬物の作用機序および副作用や人体への影響について理解する 2 治療に用いられる薬剤について学び、薬剤の作用・副作用と取扱いについて理解する				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1～4	薬理学総論	1 薬理学を学ぶにあたって (1) 薬物による病気の治療 (2) 薬理学とはなにか 2 薬理学の基礎知識 (1) 薬が作用するしくみ (薬力学) (2) 薬の体内挙動 (薬物動態学) (3) 薬物相互作用 (4) 薬効の個人差に影響する因子 (5) 薬物使用の有益性と危険性 (6) 薬と法律 (7) 薬の名前 (一般名、添付文書、薬の辞事典、医薬品集)	講義
5～7	薬理学各論①	1 抗感染症薬 2 免疫治療薬 3 末梢での神経活動に作用する薬物 4 中枢神経系に作用する薬物 5 循環器系に作用する薬物	講義
8～14	薬理学各論②	1 抗がん薬 2 抗アレルギー薬・抗炎症薬 3 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物 4 物質代謝に作用する薬物 5 皮膚科用薬・眼科用薬 6 救急の際に使用される薬物 7 漢方薬 8 消毒薬 9 輸液製剤・輸血剤	講義
15	試験 (90 分)		

使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進〔3〕薬理学 はじめる!つかえる!看護のための薬理学	吉岡 充弘 他	医学書院
		時政 孝行	南山堂
参考図書・資料等	薬のはたらきを知る やさしい薬理のメカニズム 第3版	中原 保裕	学研メディカル秀潤社
	わかりやすい疾患と処方薬の解説 (病態・薬物治療編)	「わかりやすい疾患と処方薬の解説」編集企画委員会	アーケディア
評価方法	筆記試験		

科目名	微生物学	時期		時間	単位
担当教員	非常勤講師	1 年次	前期	30 時間	2 単位
学習目標	1 微生物の特徴と生体に及ぼす影響を理解する 2 感染症を理解し、その予防と治療に必要な基礎知識を習得する 3 感染症の最新動向について説明できる				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1～2	微生物学の基礎と総論	1 現在の感染症動向 2 微生物の分類と構造・性質	講義
3～4	おもな病原微生物（1）	1 グラム陽性細菌と感染症	講義
5～6	おもな病原微生物（2）	1 グラム陰性細菌と感染症	講義
7～8	おもな病原微生物（3）	1 マイコプラズマと感染症 2 リケッチアと感染症 3 クラミジアと感染症 4 その他病原細菌と感染症	講義
9～10	おもな病原微生物（4）	1 病原真菌と真菌感染症 2 DNA ウイルスと感染症	講義
11～12	おもな病原微生物（5）	1 RNA ウイルスと感染症	講義
13～14	感染と感染防御	1 院内感染・日和見感染 2 免疫応答 3 アレルギー 4 感染症の予防	講義
15	試験（90 分）	1 筆記試験 2 試験の解説と復習	

使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進〔4〕 微生物学	南嶋 洋一 他	医学書院
参考図書・資料等			
評価方法	筆記試験		

科目名	関係法規	時期		時間	単位
担当教員	専任教員・非常勤講師 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	2年次	前期	30時間	2単位
学習目標	1 人間の健康の回復、保持・増進に関する法を理解する 2 法規に規定されている看護職の資格・業務・責任について理解する				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1	法の概念	1 法の概念・法の分類 2 衛生法 3 厚生行政のしくみ	講義 (専任教員)
2～4	看護法	1 保健師助産師看護師法 2 看護師等の人材確保の促進に関する法律	講義 (専任教員)
5	医事法	1 医療法 2 医療関係資格法 3 保健医療福祉資格法 4 医療を支える法	講義 (非常勤講師)
6	医事法（臓器移植法）	1 医療を支える法(移植医療に関する法)	講義 (非常勤講師)
7～8	保健衛生法	1 共通保健法 2 分野別保健法 3 感染症に関する法 4 食品に関する法	講義 (非常勤講師)
9～10	薬務法	1 薬事一般に関する法律 2 人などの組織を用いた医療関連法 3 薬害被害者の救済など 4 麻薬・毒薬など	講義 (非常勤講師)
11	環境衛生法・環境法	1 営業・環境整備 2 環境保全の基本法・公害防止の法・自然保護法	講義 (非常勤講師)
12	社会保険法	1 費用保障 2 年金・手当	講義 (非常勤講師)
13	福祉法	1 福祉の基盤 2 児童分野・高齢分野・障害分野	講義 (非常勤講師)
14	労働法と社会基盤整備	1 労働法 2 社会基盤整備など	講義 (非常勤講師)
15	試験（90分）		

使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔4〕看護関係法令	森山 幹夫	医学書院
	看護六法	看護行政研究会	新日本法規出版
参考図書・資料等			
評 価	筆記試験		

科目名	公衆衛生	時期		時間	単位
担当教員	非常勤講師	2 年次	前期	30 時間	2 単位
学習目標	人々の健康を維持するための公衆衛生活動の特性と組織的な保健活動について理解する				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1	公衆衛生を学ぶにあたって 公衆衛生のエッセンス①	1 公衆衛生とはなにか 2 世界の公衆衛生の歴史	講義
2～9	公衆衛生を学ぶにあたって 公衆衛生のエッセンス②	1 日本における公衆衛生 ～はじまりと発展、戦後の展開～ (1) プライマリヘルスケア (2) ヘルスプロモーション	講義
	公衆衛生の活動対象	1 社会集団をとらえる視座 2 社会集団の中にある特定集団	
	公衆衛生のしくみ	1 政策展開 2 国と地方自治体の役割 3 専門職の役割 4 住民との協働	
	環境と健康	1 地球環境と健康 2 生活環境と健康	
	国際保健	1 国際保健の共通目標 ～ミレニアム開発目標 (MDGs) ～	
	疫学	1 人々の健康を守る 2 公衆衛生の場での疫学 集団を捉える～原因分析～対策を計画・実施	
10～14	地域保健	1 母子保健 2 成人保健・高齢者保健 3 精神保健 4 歯科保健 5 難病支援・障害支援 6 感染症対策	講義
	学校と保健	1 学校における健康と学校保健	
	職場と健康	1 職場における健康と産業保健	
	健康危機管理 災害保健	1 健康危機管理 2 災害保健	
15	試験 (90 分)		

使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔2〕公衆衛生	神山 征峰 他	医学書院
参考図書・資料等			
評価方法	筆記試験		

科目名	社会福祉	時期		時間	単位
担当教員	非常勤講師	2 年次	前期	30 時間	2 単位
学習目標	1 現代社会における社会福祉の意義・役割を理解し、制度や諸サービスの成りたちと内容についての知識を得る 2 保健・医療・福祉の連携と協働の意義を理解する				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1	社会保障制度と社会福祉	1 社会保障制度 2 社会福祉の法制度	講義
2	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向	1 現代社会の変化 2 社会保障・社会福祉の動向	講義
3～4	医療保障	1 医療保障制度の沿革、構造と体系 2 健康保険と国民健康保険 3 高齢者医療制度 4 保険診療のしくみ 5 公費負担医療、国民医療費	講義
5～6	介護保障	1 介護保険制度創設の背景と介護保障の歴史 2 介護保険制度の概要、課題と展望	講義
7	所得保障	1 所得保障制度のしくみ 2 年金保険制度 3 社会手当、労働保険制度	講義
8～9	公的扶助	1 貧困・低所得問題と公的扶助制度 2 生活保護制度のしくみ 3 低所得者対策 等	講義
10～11	社会福祉の分野とサービス	1 高齢者福祉 2 障害者福祉 3 児童家庭福祉	講義
12～13	社会福祉実践と医療・看護	1 社会福祉援助とは 2 個別・集団援助技術 3 間接援助技術と関連援助技術 4 社会福祉援助の検討課題 5 連携の重要性、連携の場面とその方法	講義
14	社会福祉の歴史	1 福祉史の枠組み 2 前近代・近代の救済の諸相 3 現代社会への構造変化と生活支援 4 戦後の社会福祉の再生	講義
15	試験 (90 分)		

使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[3] 社会保障・社会福祉	福田素生ほか	医学書院
参考図書・資料等			
評価方法	筆記試験		

科目名	在宅看護概論	時期		時間	単位
担当教員	専任教員 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	2年次	前期	30時間	2単位
学習目標	1 在宅看護の変遷と社会背景から在宅看護の現状を理解する 2 在宅看護の目的と特徴を理解する 3 在宅看護の対象者と看護活動の特徴を理解する 4 在宅ケアにおける関係機関・関係職種との連携を理解する 5 在宅看護に関する諸制度を理解する 6 社会資源活用における看護師の役割を理解する				

授 業 計 画			
回数	項目	内 容	方法
1～3	在宅看護の概念	1 日本の在宅看護の歴史と現状 2 地域医療を支える看護 3 在宅看護の倫理と基本理念 4 在宅ケアと在宅看護 (1) 在宅療養者へのケア (2) 在宅ケアの目的、看護の特徴、 (3) 継続看護、訪問看護師と保健師の役割	講義
4～7	在宅療養者と家族への支援	1 訪問看護の対象者 2 在宅看護の対象者と在宅療養の成立条件 3 在宅療養者への看護活動 4 在宅看護と家族 5 家族介護者の個性に応じた支援	講義
8～10	在宅ケアのマネジメントと関係機関・関係職種間の連携	1 在宅ケアとケアマネジメント (1) 在宅看護移行支援、継続看護と退院調整 (2) 地域連携クリニカルパス、退院支援部門と連携 (3) ケアマネジメントの展開、カンファレンス 2 地域包括ケアシステムと在宅ケア 3 在宅ケアと危機管理	講義
11～14	在宅ケアを支える制度と社会資源	1 社会資源の活用 2 在宅ケアを支える医療保険制度 3 高齢者を支える制度と社会資源 4 在宅難病療養者を支える制度と社会資源 5 在宅療養者の権威を擁護する制度と社会資源	講義
15	試験 (90分)		

使用テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論	河原 加代子 他	医学書院
	写真でわかる訪問看護アドバンス	押川 真喜子 監修	インターメディカ
	国民衛生の動向		厚生統計協会
参考図書・資料等	DVD いのちと生活を看護する訪問看護サービス		日本訪問看護財団
	DVD 目で見る訪問看護 Vol.1 訪問看護とは		医学映像教育センター
評価方法	筆記試験・課題レポート等		

科目名	在宅看護援助論 I	時期		時間	単位
担当教員	非常勤講師	2 年次	後期	30 時間	1 単位
学習目標	1 訪問看護の特徴と訪問看護師の役割を理解する 2 訪問看護ステーションの設置運営・従業者・対象者・サービスと利用までの流れを理解する 3 訪問看護における看護過程の特徴を理解する 4 訪問看護における記録の意義や留意点を理解する 5 在宅療養者とその家族に応じた安全で安楽な援助技術を学ぶ				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1～7	在宅療養を支える看護	1 訪問看護の特徴 (1) 訪問看護とは (2) 訪問看護の制度と現状 (3) 訪問看護における看護職 2 在宅ケアを支える訪問看護ステーション (1) 訪問看護ステーションの設置と管理運営 (2) 従事者 (3) 対象者 (4) サービス内容 (5) サービスの流れ (6) 利用料 (7) 訪問看護制度の課題と今後の方向性 3 訪問看護の実践 (1) 訪問看護における看護過程の特徴 (2) 訪問看護過程の実際 (3) 家庭訪問・初回訪問 4 訪問看護の記録 (1) 訪問看護記録の意義 (2) 訪問看護で使用する記録 (3) 記録時の留意点	講義
8～14	在宅における援助技術	1 食のアセスメントと援助 (1) 摂食・嚥下訓練法 (2) 在宅経管栄養療法 (HEN) (3) 胃瘻栄養法 (4) 在宅中心静脈栄養法 (HPN) 2 清潔のアセスメントと援助 3 移動時のアセスメントと援助 4 排泄のアセスメントと援助 5 呼吸のアセスメントと援助 (1) 呼吸理学療法 (2) 気管カニューレ (3) 在宅酸素療法 (HOT) (4) 在宅人工呼吸療法 (HMV) (5) 非侵襲的陽圧換気療法 (NPPV) 6 感染予防・体温・体位のアセスメントと援助 7 服薬管理の実際 8 ターミナル期の援助 (1) 疼痛コントロール (2) ターミナル期のケア	講義・演習 〈レベルⅢ〉 11. モデル人形での経鼻チューブの挿入・確認ができる
15	試験 (90 分)		

使用テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論	河原 加代子 他	医学書院
	写真でわかる訪問看護アドビシス	押川 真喜子 監修	インターメディカ
参考図書・資料等	看護過程に沿った対象看護 第4版	高木 永子 他	学研
評価方法	筆記試験・課題レポート等		

科目名	在宅看護援助論Ⅱ	時期		時間	単位
担当教員	専任教員 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	2年次	後期	30 時間	1 単位
学習目標	1 信頼関係を築くための訪問看護技術の基本を理解する 3 在宅療養者に対する災害対策の概要を理解する 4 事例から生活上の課題・在宅療養者と家族に応じた生活支援の方法と技術などを検討する 5 在宅看護における看護過程の特徴とそのプロセスを理解する				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1	訪問看護技術	1 家庭訪問・初回訪問 2 在宅療養における看護過程の展開技術	講義・演習
2～3	在宅療養生活を支える基本的な技術	1 コミュニケーション 2 フィジカルアセスメント 3 環境整備 4 生活リハビリテーション 5 感染予防 6 ターミナルケア 7 医療ケアの原理原則	講義・演習
4	在宅療養を支える災害対策	1 在宅療養における災害対策 2 地域包括ケアシステムにおける災害対策 3 訪問看護師による災害時対応	講義
5～9	事例で学ぶ在宅看護の技術	1 事例による在宅看護 (1) 脳卒中後遺症 (2) 被虐待が疑われる認知症高齢者 (3) ALS・ギランバレー症候群・重症筋無力症 脊髄損傷等による療養者 (4) ターミナル期のがん患者 (5) 糖尿病のある独居高齢者 (6) 老々介護を開始する高齢療養者 (7) 重度心身障害児 (8) 膠原病の療養者	講義・演習
10～14	在宅療養における看護過程の展開	1 在宅療養における看護過程の特徴 2 事例演習 (1) 情報収集の視点 (2) 在宅看護の分析の視点	講義・演習
15	試験 (90 分)		

使用テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 写真でわかる訪問看護アドバンス	河原 加代子 他 押川 真喜子 監修	医学書院 インターメディカ
参考図書・資料等			
評価方法	筆記試験・課題レポート等		

科目名	在宅看護論実習	2単位	90時間
-----	---------	-----	------

実習目的	地域で療養する対象とその家族を理解し、住み慣れた地域で安心して療養生活を送ることを支援するための看護師の役割と地域包括ケアシステムにおける多職種の連携・協働の実際を学ぶ
実習目標	1 地域で療養する人々の健康と生活を支える多職種の連携・協働の実際を理解する 2 地域で生活する人々の健康状態や生活に応じた支援を理解する 3 施設で療養する人々の暮らし方と健康維持及び生活を整える援助を理解する 4 在宅で療養する対象とその家族の健康状態と暮らし方に応じた看護を理解する 5 地域包括ケアシステムにおける看護師の役割について考察する

科目名	看護研究Ⅰ	時期		時間	単位
担当教員	専任教員 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	2年次	前期 後期	30時間	1単位
学習目標	1 看護における研究の意義と方法がわかる 2 研究のプロセスとその進め方がわかる 3 研究の一連の過程を体験することにより、科学的思考と姿勢をもつことができる				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1～2	看護における研究の役割	1 研究とは何か 2 看護研究の意義 3 看護研究の分野 4 看護研究と倫理	講義
3～14	看護研究のプロセス (1) 研究のテーマ	1 問題意識 2 データの収集	講義
	(2) 仮説の設定	1 研究課題の選択 (1) 動機とテーマ (2) 用語の定義 (3) 仮説の設定 2 文献検索	講義
	(3) 研究方法の選択	1 研究デザイン 2 研究方法の選択	講義
	(4) 看護研究計画書	1 研究計画書の意義 2 研究計画書の作成	講義
	(5) 研究結果の活用	1 データの分析 2 結果 3 考察・結論	講義
	(6) 論文の書き方	1 論文の構成 2 留意事項 3 抄録の構成	演習
	(7) 発表と講評	1 研究を発表する意義と留意点 2 プレゼンテーションソフトの活用	講義 研究発表（学内）
	(8) 学会参加(学会)参加		学会参加
15	試験(45分)	まとめ	

使用テキスト	系統看護学講座 別巻 看護研究	坂下 玲子 他	医学書院
参考図書・資料等	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[1] 看護学概論	茂野 香おる 他	医学書院
評価方法	筆記試験、レポート、看護研究の実際、学会参加報告から総合的に評価する		

科目名	看護研究Ⅱ	時期		時間	単位
担当教員	専任教員 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	3年次	前期 後期	30時間	1単位
学習目標	1 自己の看護を振り返り、看護に対する考えを論理的に追求し、研究的態度を養う 2 研究的態度を継続する必要性を理解する				

授 業 計 画			
回数	項目	内 容	方法
1	事例研究とは何か	1 事例研究の意義 2 事例研究の方法 3 事例研究と倫理	講義
2～5	研究の実際	1 研究のテーマの設定 2 研究計画書の作成 3 文献検索 4 研究論文の作成 5 抄録の作成	講義
6～13	研究発表準備	1 発表原稿作成 2 補助資料の作成 3 発表練習 4 座長・司会・書記の役割準備 5 発表会場・スケジュールの確認 6 リハーサル	講義
14～15	研究発表会		研究発表 (学内)

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔1〕 看護学概論	茂野 香おる 他	医学書院
	系統看護学講座 別巻 看護研究	坂下 玲子 他	医学書院
	看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方	松本 孚・森田 夏実	照林社
参考図書・資料	アカデミックスキルズ 大学生のための知的技法入門 第2版	佐藤 望 他	慶應義塾大学出版会
	ピアで学ぶ大学生の日本語表現〔第2版〕	大島 弥生 他	ひつじ書房
評価方法	研究論文 看護研究の実際		

科目名	看護の統合と実践技術	時期		時間	単位
担当教員	専任教員 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	3年次	前期 後期	30 時間	1 単位
学習目標	1 看護実践場面における医療安全と優先順位、倫理的配慮について理解する 2 シミュレータを通して、場面に応じたアセスメントと援助を適切に実施する				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方 法
1～3	チームで協働する看護実践	1 複数患者の状況判断と援助計画 2 多重課題と優先順位 3 時間管理と業務の組み立て 4 看護チームにおけるメンバーシップ 5 看護倫理と看護実践	講義
4～5	場面に応じた看護技術	1 診療の補助技術 (1) 輸液療法、採血、吸引、救命処置 (2) ME機器の操作 など (3) 輸液ポンプ、シリンジポンプの適応、観察、操作方法	講義・演習 【演習】 (レベルⅢ) 87. 輸液ポンプの取り扱い シリンジポンプの取り扱い
6～14	様々な患者の状況に応じた看護実践	1 様々な状態の患者に対するアセスメント (1) 安全・安楽・自立 (2) 倫理的配慮 (3) タイムプレッシャー (4) 優先順位 (5) 状況に合わせた看護実践 2 援助の方法と留意点 3 なりきり看護師学習 (1) アナフィラキシー症状への初期対応 (2) 初めて化学療法を受ける患者への看護 (3) その他 4 シミュレーション学習 (1) ブリーフィング (2) シミュレーション (3) デブリーフィング	講義・演習 <レベルⅣ> 90. 中心静脈栄養を受けている患者の観察点
15	試験 (90 分)		

使用テキスト	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践〔1〕 看護管理	上泉 和子 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ	有田 清子 他	医学書院
	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版	任 和子 他	医学書院
参考図書・資料等	医療安全ワークブック 第3版	川村 治子	医学書院
	DVD よくある場面から学ぶ多重課題 Vol.3 複数の人との関わり 1・2 ME 機器の知識と技術 Vol.1 輸液ポンプ、シリンジポンプ		
評価方法	試験、レポート、技術試験		

科目名	看護管理	時期		時間	単位
担当教員	副学校長・非常勤講師	3年次	後期	15時間	1単位
学習目標	看護活動を円滑に行うための管理について理解する				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1	看護とマネジメント	1 看護管理学とは 2 看護におけるマネジメント	講義 (副学校長)
2	看護ケアのマネジメント	1 看護ケアのマネジメントと看護職の機能 2 患者の権利の尊重 3 安全管理 4 チーム医療 5 看護業務の実践	講義 (副学校長)
3～5	看護職のキャリアマネジメント	1 キャリアとキャリア形成 2 看護職のキャリア形成 3 看護専門職としての成長 4 ストレスマネジメント	講義 (非常勤講師)
	看護サービスのマネジメント	1 看護サービスのマネジメント 2 組織目的達成のマネジメント 3 看護サービス提供のしくみづくり 4 人材のマネジメント 5 施設・設備環境のマネジメント 6 物品のマネジメント 7 情報のマネジメント 8 組織におけるリスクマネジメント 9 サービスの評価	講義 (非常勤講師)
6	マネジメントに必要な知識と技術	1 組織とマネジメント 2 リーダーシップとマネジメント 3 組織の調整	講義 (非常勤講師)
7	看護を取り巻く諸制度	1 看護職と諸制度 2 医療制度	講義 (副学校長)
8	試験 (45 分)		

使用テキスト	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 〔1〕看護管理	上泉 和子 他	医学書院
参考図書・資料等			
評価方法	筆記試験		

科目名	地域医療	時期		時間	単位
担当教員	非常勤職員	3年次	後期	15時間	1単位
学習目標	1 新潟県における医療の状況を理解する 2 地域の医療連携体制と地域医療構想を踏まえた病院の役割等を理解する 3 地域医療提供体制構築についての取り組みを理解する 4 地域住民と医療関係者等が取り組む健康づくりの実践を理解する				

授 業 計 画			
回数	項目	内 容	方法
1	新潟県における医療の状況	1 医療事業と病床数等の推計 2 地域医療における人材育成・確保対策の現状と課題	講義
2	十日町圏域における医療の状況	1 十日町地域の医療連携体制 2 地域医療構想を踏まえた十日町病院の役割 (1) 医療提供体制 (2) 地域包括ケアシステム	講義
3～4	地域医療提供体制の整備	1 新潟地域医療学講座 地域医療部門について 2 取り組み内容 (1) 魚沼等の地域医療の現場に根ざした地域医療提供体制整備 (2) 専門医の認定・更新を可能とする体制整備 (3) その他	講義
5～7	地域医療魚沼学校	1 地域包括ケアにおける地域医療魚沼学校 (1) 学校の沿革・教育目的・教育目標 (2) 学校カリキュラム ①住民が学ぶ ・ナイトスクール、オープンスクール、その他 ②専門職が学ぶ ・地域包括ケアのための IPW 言語講座 専門職種と住民の合同研修会 ・地域包括ケアのための IPW 実践講座 病院から在宅へ、オープン委員会、IPW 回診 ・地域包括ケアのための IPW 大学院 個別の課題解決のための専門研修 ③学生・研修医が学ぶ ・オープンホスピタル、地域医療研修特別プログラム (TMM 講座、EMM 講座) 2 地域医療魚沼学校の講座への参加	講義・ 体験学習
8	試験 (45 分)		

使用テキスト	医療経済学・地域医療学	浜田 淳 他	岡山大学出版会
参考図書・資料等			
評 価	レポート等から総合的に評価する		

科目名	医療安全	時期		時間	単位
担当教員	専任教員・非常勤講師 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	2年次	後期	30時間	1単位
学習目標	1 安全な医療、看護を提供するための医療安全対策を理解する 2 看護場面で遭遇しやすい医療事故を理解する				

授 業 計 画			
回数	項目	内 容	方法
1	事故防止の考え方を学ぶ	1 医療事故と看護業務 2 看護事故の構造 3 看護事故防止の考え方	講義 (非常勤講師)
2～4	診療の補助の事故防止 (I)・(II)	1 業務特性からみた患者に投与する業務の事故防止 2 注射業務と事故防止 3 注射業務に用いる機器での事故防止 4 輸血業務と事故防止 5 内服与薬業務と事故防止 6 経管栄養 (注入) 業務と事故防止 7 チューブ管理と事故防止	講義 (非常勤講師) (レベルIII) 138 誤薬防止
5～7	療養上の世話の事故防止	1 療養上の世話における2群の事故の捉え方と防止 2 転倒・転落事故防止 3 摂食中の窒息・誤嚥事故防止 4 異食事故防止、入浴中の事故防止	講義 (専任教員) (レベルII) 136 転倒転落予防
8	業務領域をこえて共通する間違いと発生要因	1 業務領域をこえて共通する患者間違い 2 間違いを誘発する多重課題、タイムプレッシャーと業務途中の中断 3 新人特有の危険な思い込みと行動パターン	講義 (非常勤講師) (レベルI) 134 患者誤認
9	医療安全とコミュニケーション	1 不正確・不十分なコミュニケーションは事故の重要要因 2 事故防止のための医療職間のコミュニケーション 3 医療事故防止のための患者とのコミュニケーション 4 事故の未然防止上重要なコミュニケーション	講義 (非常勤講師)
10～11	看護師の労働安全衛生上の事故防止	1 職業感染 2 抗がん剤の曝露防止、放射線被曝 3 ラテックスアレルギー、院内暴力	講義 (非常勤講師)
12	組織的な安全管理体制への取り組み	1 組織としての医療安全対策 2 システムとしての事故防止の具体例 3 重大事故防止発生時の医療チーム及び組織の対応	講義 (非常勤講師) (レベルI) 132 インシデント
13	医療安全対策の国内外の潮流	1 わが国の医療安全対策の潮流 2 国外の医療安全対策の潮流と国際的連携 3 産業界から学ぶ—ヒューマン・ファクターズ—の取り入れ	講義 (非常勤講師)
14	安全対策の実際	1 事例を通したリスクアセスメント	講義 (専任教員)
15	試験 (90 分)		

使用テキスト	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[2] 医療安全	川村 治子	医学書院
	医療安全ワークブック 第3版	川村 治子	医学書院
参考図書・資料等	DVD 事例で学ぶヒヤリ・ハット Vol.1 あらゆる看護行為に潜むヒヤリ・ハット		
評価	筆記試験、レポート、演習内容		

科目名	災害看護	時期		時間	単位
担当教員	非常勤講師	3 年次	後期	15 時間	1 単位
学習目標	1 健康生活と自立を支えるために必要な災害時期に応じた看護活動を理解する 2 災害関係諸機関と連携しながら、他職種との協働の中で看護の役割を理解する				

授 業 計 画				
回数	項 目	内 容	方法	
1	災害医療の基礎知識	1 災害の定義 2 災害の種類と健康障害 3 災害医療の特徴 4 災害と情報 5 災害対応にかかわる職種間・組織間連携 6 災害看護と法律 7 国内の救護活動の現状と課題	講義	
2	災害看護の歩みと基礎知識	1 活動援助としての災害看護のはじまり 2 災害の体験から求められる看護の役割拡大 3 災害看護の定義と役割 4 災害看護の対象 5 災害看護の特徴と看護活動	講義 〈レベルⅠ〉 133 災害時の行動 103. 応援要請	
3	災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護	1 急性期・亜急性期 2 慢性期・復興期 3 静穏気	講義	
4	被災者特性に応じた災害看護の展開	1 子ども・妊産婦・高齢者・障害者に対する災害看護 2 精神障害者に対する災害看護 3 慢性疾患患者に対する災害看護 4 在日外国人に対する災害看護	講義	
5	災害とこころのケア	1 こころのケアとは 2 被災者・遺族・被災援助者のこころのケア 3 援助者のストレスとこころのケア	講義	
6～7	看護支援活動の実際（災害医療に必要な看護技術）	1 トリアージ 2 応急処置と搬送（止血法を含む） 3 心肺蘇生法（意識レベル・CPR・AED）	講義・演習 〈レベルⅡ〉 104 〈レベルⅢ〉 105～110	
8	試験（45 分）			

使用テキスト	系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学	浦田 喜久子 他	医学書院
参考図書・資料等			
評価方法	筆記試験、レポート		

科目名	国際看護論	時期		時間	単位
担当教員	非常勤講師	1 年次	後期	15 時間	1 単位
学習目標	1 世界の人々が抱える健康問題を理解する 2 健康格差を生む要因を理解する 3 世界の人々の健康に貢献する看護師の活動について理解する 4 諸外国の医療・看護および日本における在日外国人に対する看護を理解する				

授 業 計 画			
回 数	項 目	内 容	方法
1	国際看護の概要	1 国際看護の定義 2 国際看護に関連する基礎知識	講義
2	国際看護活動の支援を必要とする対象	1 国際看護活動が扱う範囲 2 海外における看護活動 3 在日外国人への看護活動	講義
3	異文化理解	1 文化を考慮した看護理論 (1) レイニンガーの看護理論 (2) 異文化のアセスメントモデル	講義
4～5	開発協力と看護活動	1 開発途上国と看護 (1) 貧困と健康 (2) 女性の健康 (3) 感染症	講義
6	国際看護活動の実際①	1 国際協力活動の実際 2 海外における看護活動の実際	講義
7	国際看護活動の実際②	1 諸外国（中国、韓国・朝鮮、フィリピン等）における社会・医療保障制度 2 諸外国における医療・看護の状況 3 在日外国人への看護	講義
8	試験（45 分）		

使用テキスト	国際看護 国際社会の中で看護の力を発揮するために	森 淑江 他	南光堂
参考図書・資料等	講義の際、適宜提示する		
評価方法	筆記試験、レポート		

科目名	統合実習	2単位	90時間
-----	------	-----	------

実習目的	既修の知識・技術・態度を統合し、医療チームの一員としての役割遂行をめざした看護実践力を高める。将来のキャリアを見据えるための一助とするために、看護専門職としての役割、責務、態度について学びを深める。
実習目標	1 複数患者の援助をマネジメントし優先順位、時間管理を意識した看護を実践する 2 看護チームの一員としての役割を理解し、看護活動の実際を理解する 3 看護の継続性を理解し実践する 4 病棟管理・看護管理の実際について理解する 5 実際の医療安全の取り組みから、医療安全管理について理解する 6 他部門における多職種との役割と看護部との連携の実際について理解する 7 専門職業人として主体的に学習し、倫理に基づいた責任ある看護を実践する 8 夜間における患者の療養生活や看護の特徴を理解する